

太宰府市の地域福祉に関する  
アンケート調査  
結果報告書

令和 3 年 4 月

太宰府市

# 目 次

I アンケート調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査概要	1
3 回収結果	1
4 報告書の見方	1
II アンケート調査結果	2
1 あなたご自身について	2
2 「福祉」について	5
3 地域での生活について	7
4 地域活動やボランティア活動について	20
5 福祉サービスについて	26
6 これからの福祉のあり方について	33
7 生活困窮者支援・ひきこもりについて	36
8 成年後見制度について	39

# I アンケート調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、市民の皆さまの「地域福祉」に関するご意見をお聴きし、計画づくりに反映することを目的として実施しました。

## 2 調査概要

- ◇調査対象者：市内在住の20歳以上の方（無作為抽出）
- ◇調査期間：令和3年2月17日（水）～3月3日（水）
- ◇調査方法：郵送配布・郵送回収による本人記入方式

## 3 回収結果

- ◇配布数：2,000件
- ◇有効回収数：1,009件
- ◇有効回収率：50.5%

## 4 報告書の見方

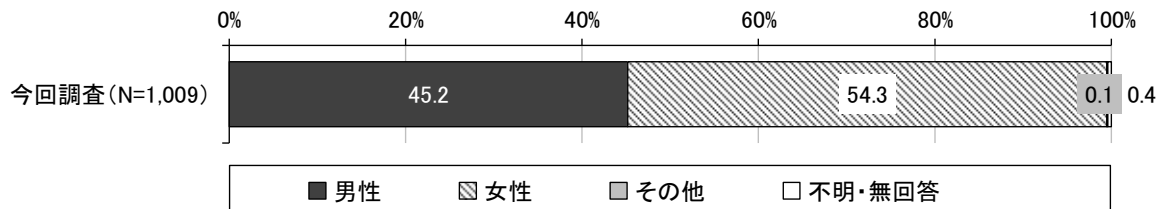
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇本文中の前回調査とは、平成28年度に実施した「太宰府市の地域福祉に関する市民アンケート」を指します。

## Ⅱ アンケート調査結果

### 1 あなたご自身について

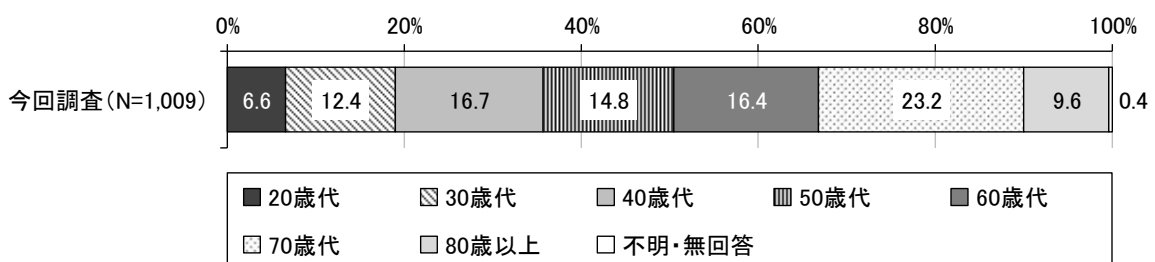
#### ○ あなたの性別をお選びください。（単数回答）

性別についてみると、「女性」が54.3%と最も高く、次いで「男性」が45.2%、「その他」が0.1%となっています。



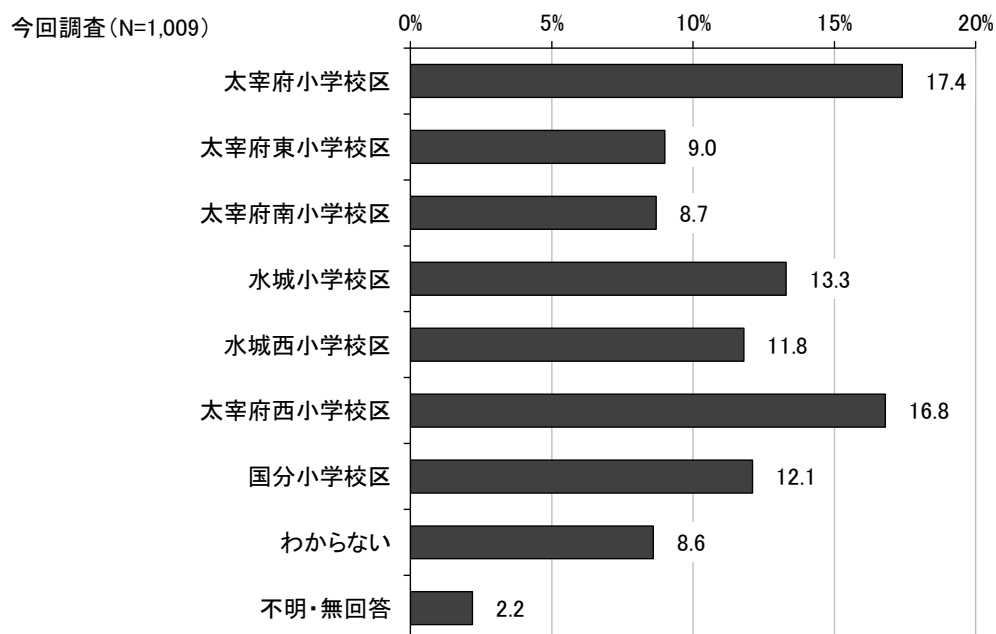
#### ○ あなたの年代をお選びください。（単数回答）

年代についてみると、「70歳代」が23.2%と最も高く、次いで「40歳代」が16.7%、「60歳代」が16.4%となっています。



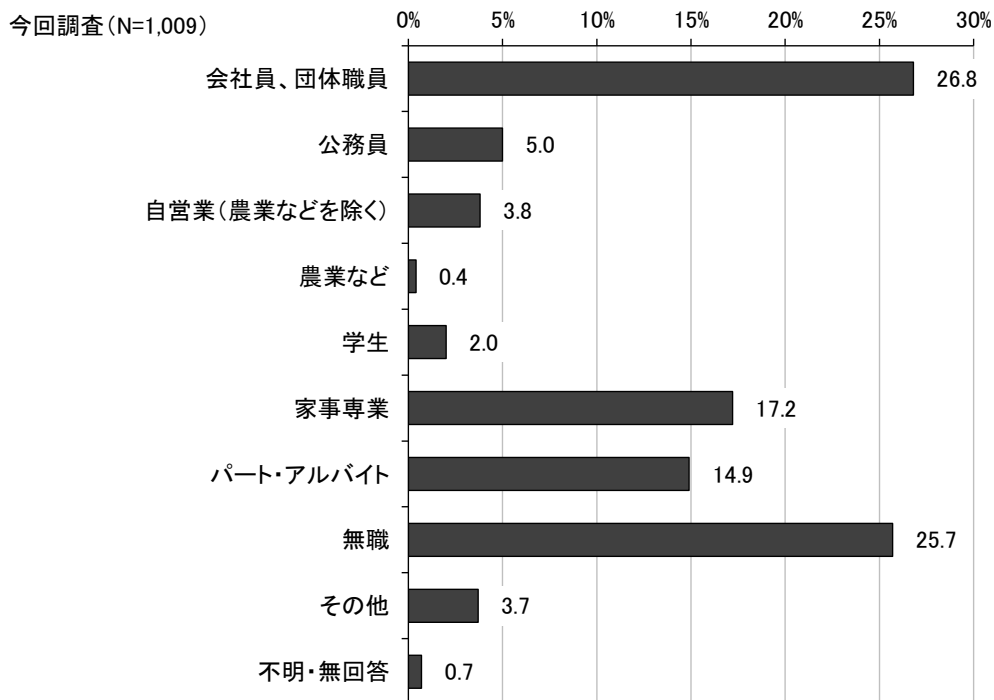
#### ○ あなたが住んでいる小学校区はどちらですか。（単数回答）

住んでいる小学校区についてみると、「太宰府小学校区」が17.4%と最も高く、次いで「太宰府西小学校区」が16.8%、「水城小学校区」が13.3%となっています。



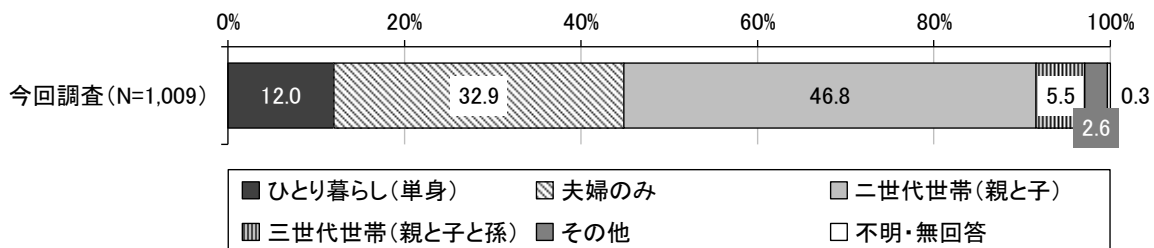
○ あなたの主な職業をお選びください。（単数回答）

主な職業についてみると、「会社員、団体職員」が26.8%と最も高く、次いで「無職」が25.7%、「家事専業」が17.2%となっています。



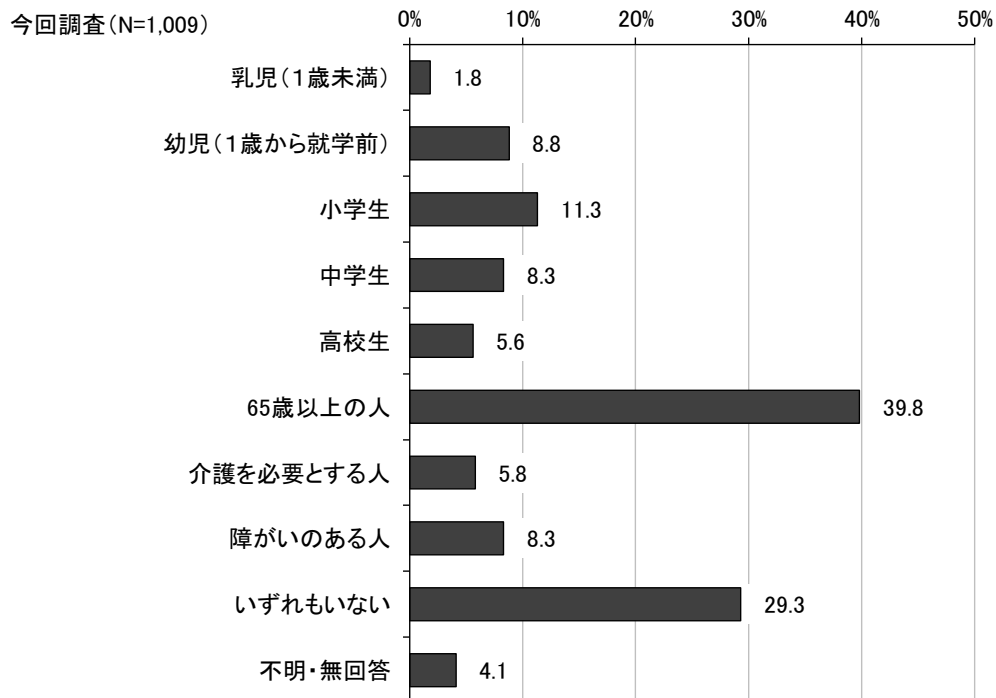
○ あなたの家族構成はどのようになっていますか。（単数回答）

家族構成についてみると、「二世世代世帯(親と子)」が46.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が32.9%、「ひとり暮らし(単身)」が12.0%となっています。



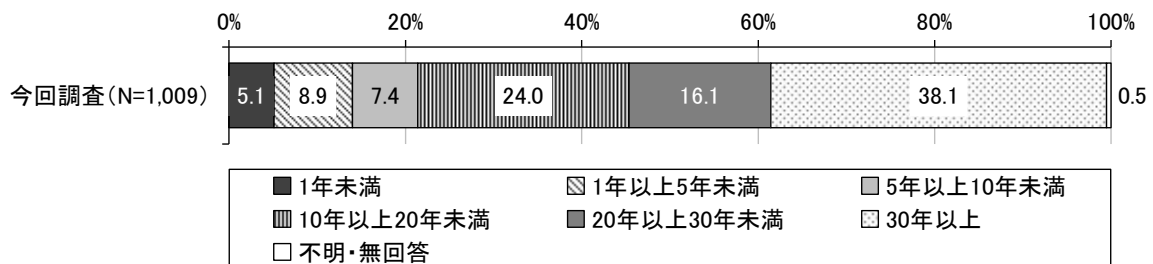
○ あなたが現在一緒に住んでいるご家族のなかに、つぎのような人（あなた自身も含まず）はいますか。（複数回答）

家族につぎのような人はいるかについてみると、「65歳以上の人」が39.8%と最も高く、次いで「いずれもない」が29.3%、「小学生」が11.3%となっています。



○ あなたは太宰府市に住んで何年になりますか。（単数回答）

太宰府市に住んでいる年数についてみると、「30年以上」が38.1%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」が24.0%、「20年以上30年未満」が16.1%となっています。

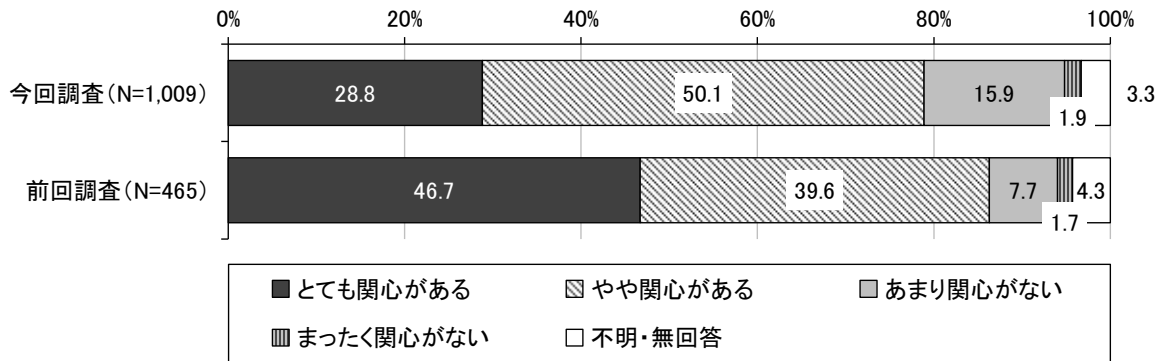


## 2 「福祉」について

### 問1 あなたは「福祉」に関心をお持ちですか。（単数回答）

「福祉」の関心度についてみると、「やや関心がある」が50.1%と最も高く、次いで「とても関心がある」が28.8%、「あまり関心がない」が15.9%となっています。

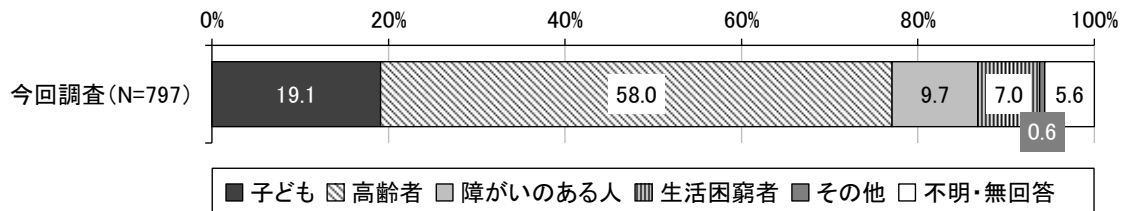
前回調査と比較すると、「とても関心がある」が17.9ポイント、「やや関心がある」が10.5ポイント減少し、「あまり関心がない」が8.2ポイント増加しています。



### 問1で「とても関心がある」、「やや関心がある」を選んだ方

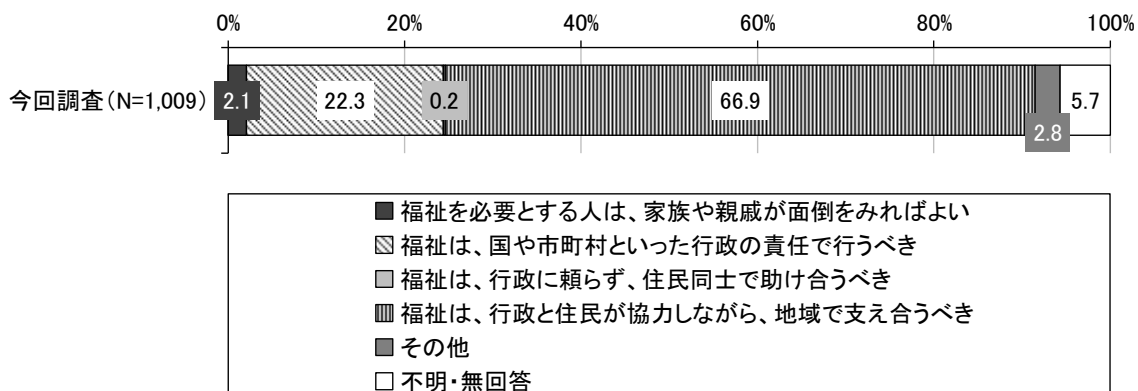
#### 問1-1 「福祉」のどのような分野にもっとも関心がありますか。（単数回答）

もっとも関心のある「福祉」の分野についてみると、「高齢者」が58.0%と最も高く、次いで「子ども」が19.1%、「障がいのある人」が9.7%となっています。



### 問2 これからの「福祉」のあり方は、どのようであるべきだと思いますか。（単数回答）

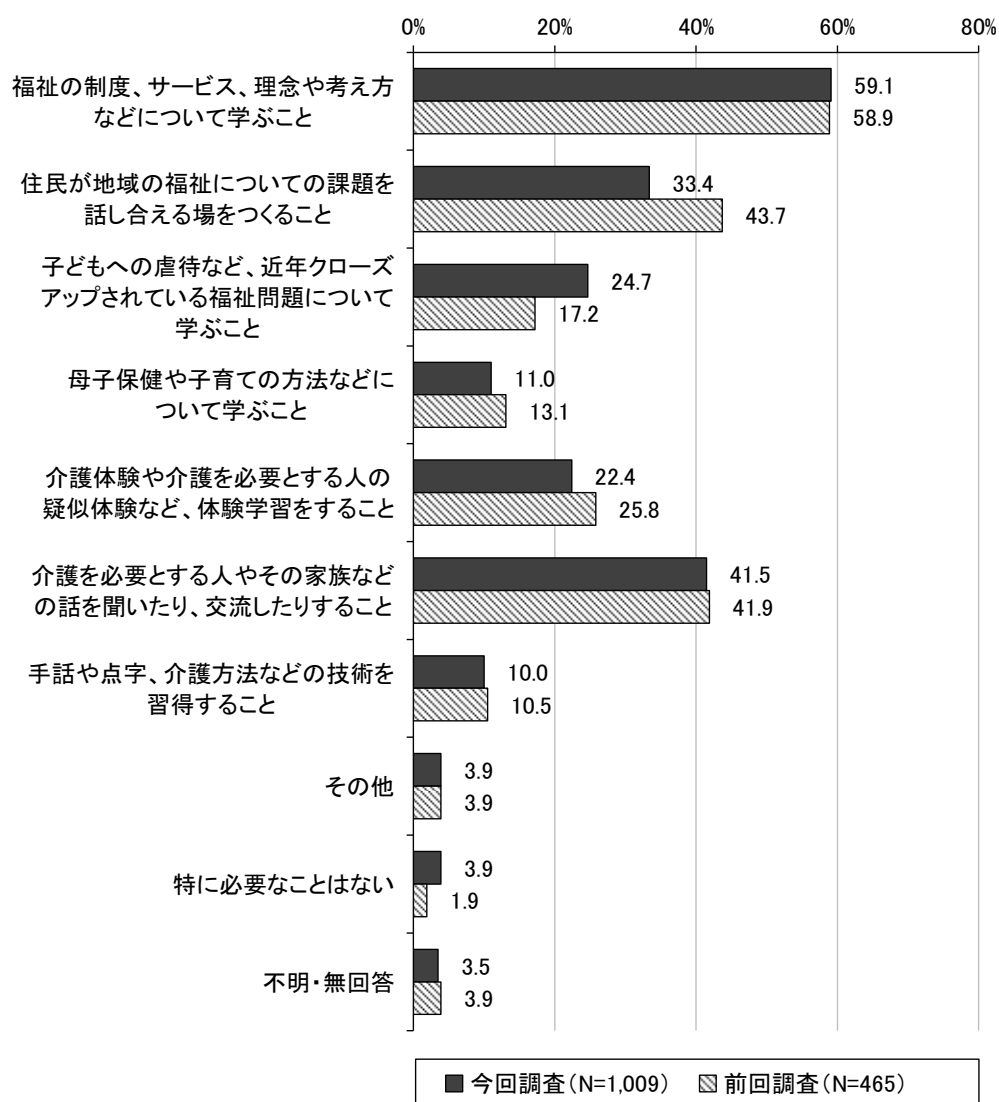
あるべきだと思う「福祉」のあり方についてみると、「福祉は、行政と住民が協力しながら、地域で支え合うべき」が66.9%と最も高く、次いで「福祉は、国や市町村といった行政の責任で行うべき」が22.3%、「その他」が2.8%となっています。



### 問3 あなたは、住民が福祉について理解を深めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで複数回答）

住民が福祉について理解を深めるために必要なことについてみると、「福祉の制度、サービス、理念や考え方などについて学ぶこと」が59.1%と最も高く、次いで「介護を必要とする人やその家族などの話を聞いたり、交流したりすること」が41.5%、「住民が地域の福祉についての課題を話し合える場をつくること」が33.4%となっています。

前回調査と比較すると、「住民が地域の福祉についての課題を話し合える場をつくること」が10.3ポイント減少し、「子どもへの虐待など、近年クローズアップされている福祉問題について学ぶこと」が7.5ポイント増加しています。



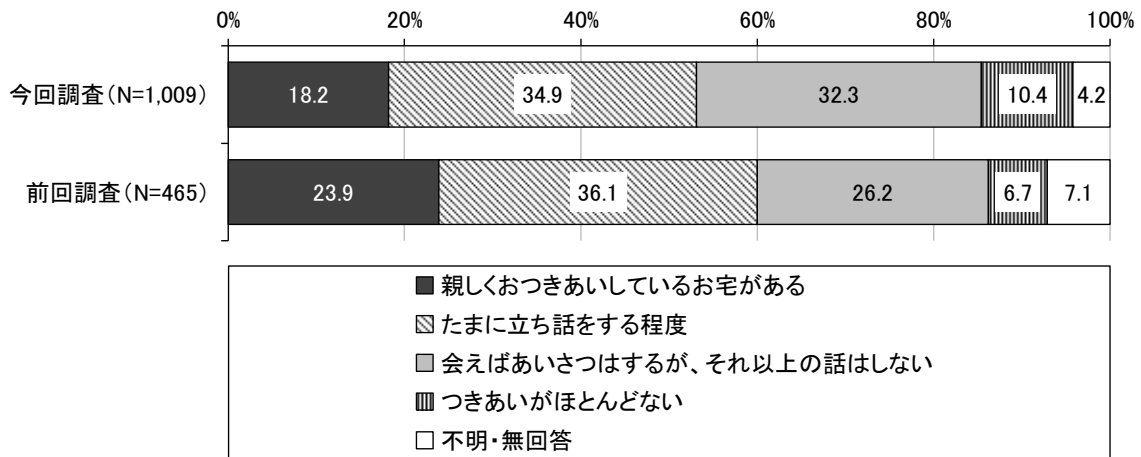


### 3 地域での生活について

#### 問4 あなたは、普段近所の人とどの程度のつきあいをされていますか。（単数回答）

近所の人との普段のつきあいの程度についてみると、「たまに立ち話をする程度」が34.9%と最も高く、次いで「会えばあいさつはするが、それ以上の話ほしない」が32.3%、「親しくおつきあいしているお宅がある」が18.2%となっています。

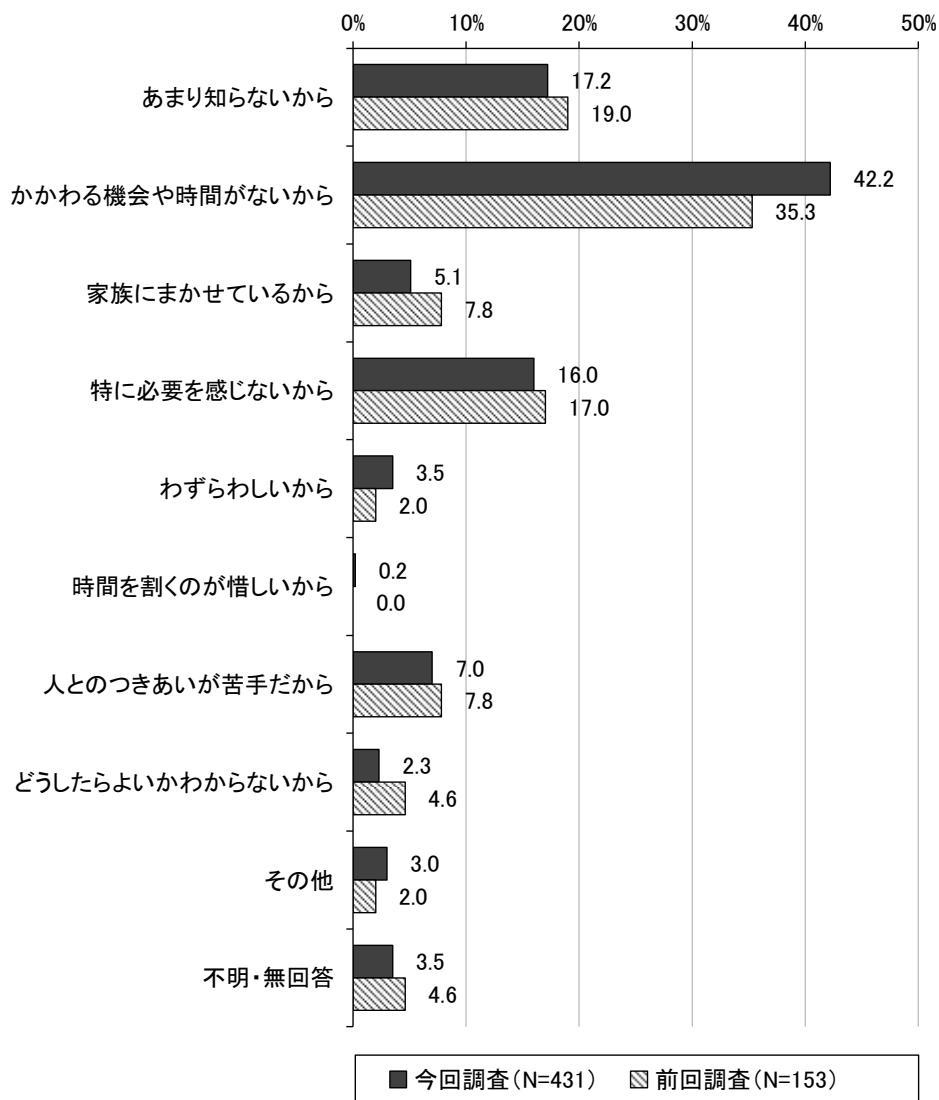
前回調査と比較すると、「つきあいがほとんどない」が6.7%から3.7ポイント増加し、全体の約1割となっています。



問4で「会えばあいさつはするが、それ以上の話はしない」、「つきあいがほとんどない」を選んだ方

### 問4-1 つきあいがほとんどないのはなぜですか。(単数回答)

つきあいがほとんどない理由についてみると、「かかわる機会や時間がないから」が42.2%と最も高く、次いで「あまり知らないから」が17.2%、「特に必要を感じないから」が16.0%となっています。前回調査と比較すると、「かかわる機会や時間がないから」が6.9ポイント増加しています。

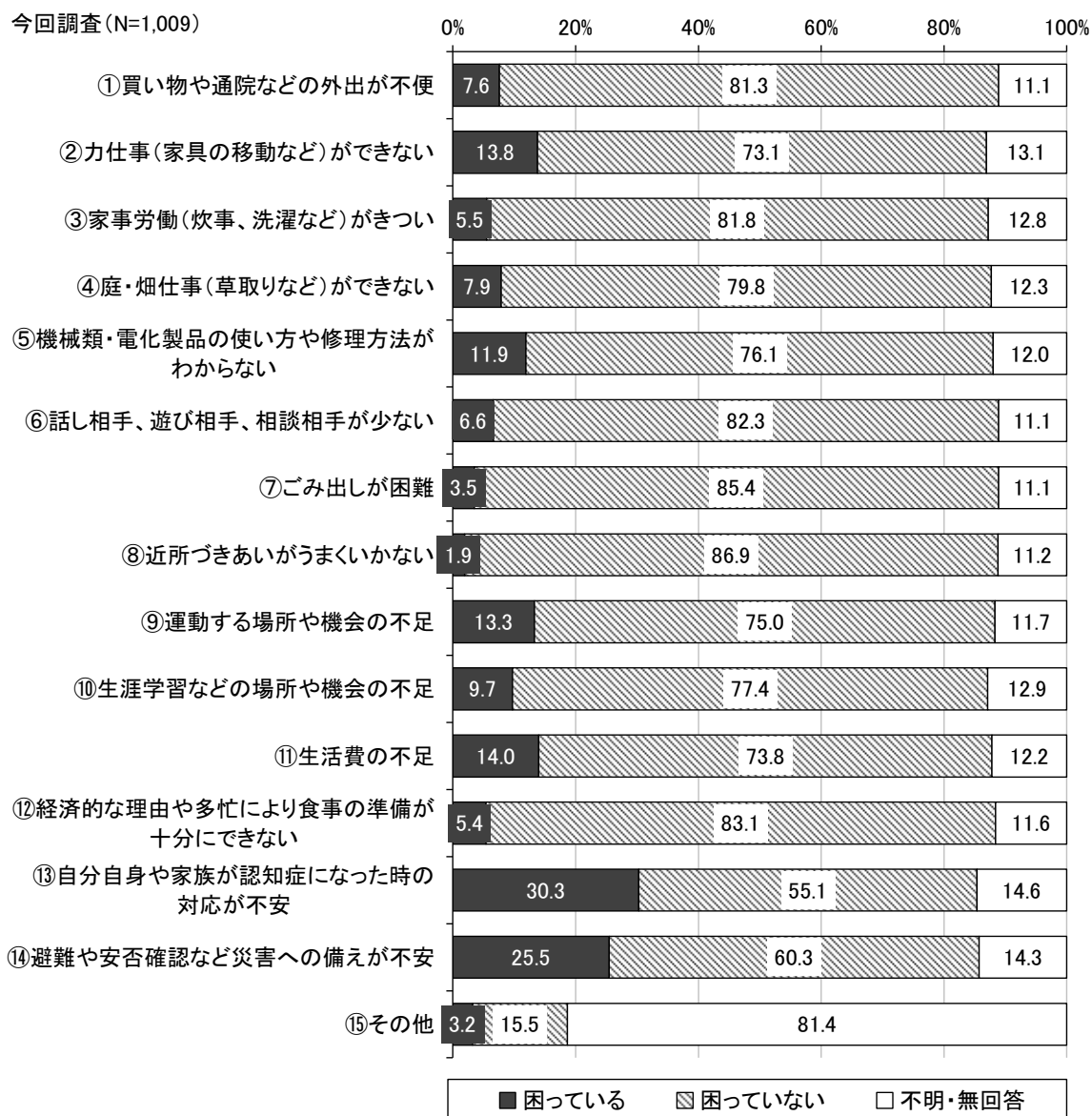


問5 毎日の暮らしのなかでのあなたの困りごとはどのようなことですか。

また、それについて支援は必要ですか。

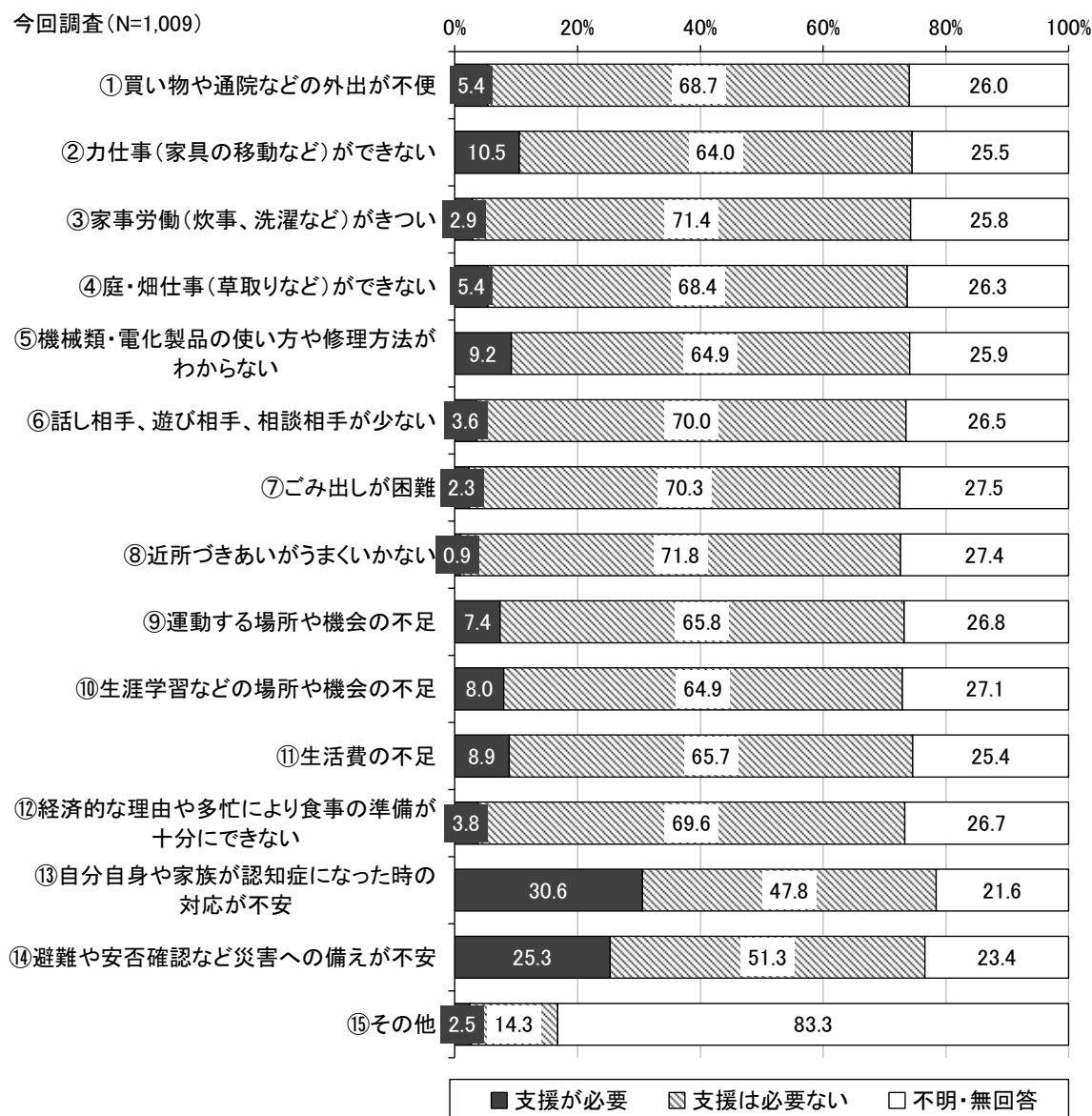
A 困りごと (①～⑮それぞれ単数回答)

毎日の暮らしのなかでのあなたの困りごとについてみると、〔⑬自分自身や家族が認知症になった時の対応が不安〕、〔⑭避難や安否確認など災害への備えが不安〕で「困っている」がそれぞれ 30.3%、25.5%と他と比べて高くなっています。



## B 支援の必要性 (①～⑮それぞれ単数回答)

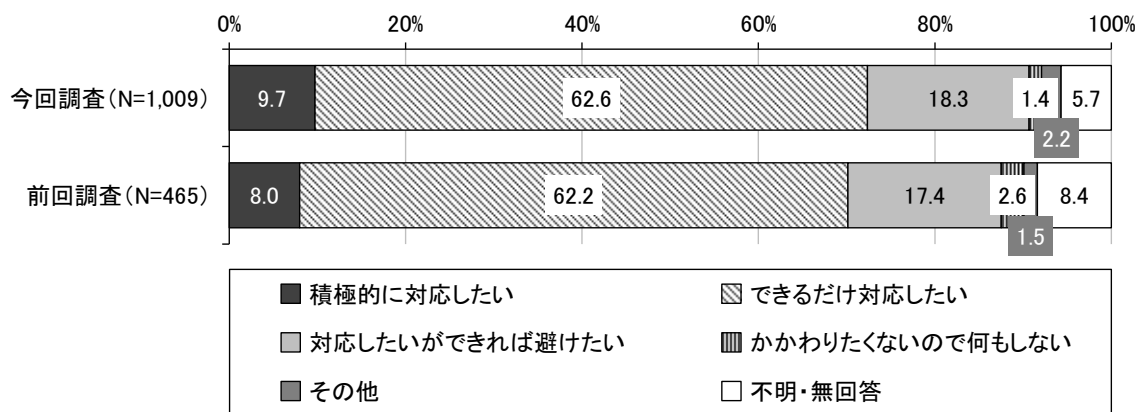
困りごとに対する支援の必要性についてみると、〔⑬自分自身や家族が認知症になった時の対応が不安〕、〔⑭避難や安否確認など災害への備えが不安〕で「支援が必要」がそれぞれ30.6%、25.3%と他と比べて高くなっています。



問6 日々の暮らしのなかで困りごとを抱える人から助けを求められた時、あなた自身はどう対応したいと思いますか。（単数回答）

日々の暮らしのなかで困りごとを抱える人から助けを求められた時の対応についてみると、「できるだけ対応したい」が62.6%と最も高く、次いで「対応したいができれば避けたい」が18.3%、「積極的に対応したい」が9.7%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありません。

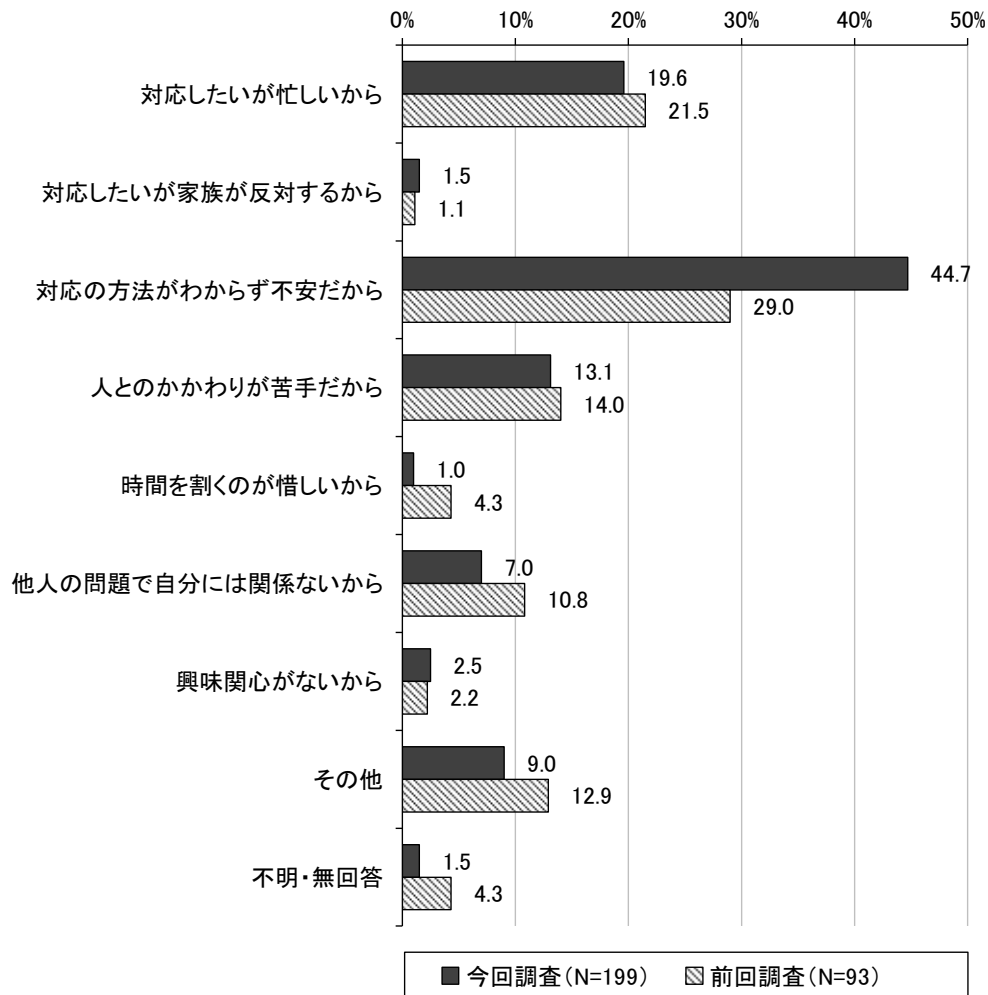


問6で「対応したいができれば避けたい」、「かわかりたくないのでもしない」を選んだ方

問6-1 そのように考えるのはどのような理由からですか。（単数回答）

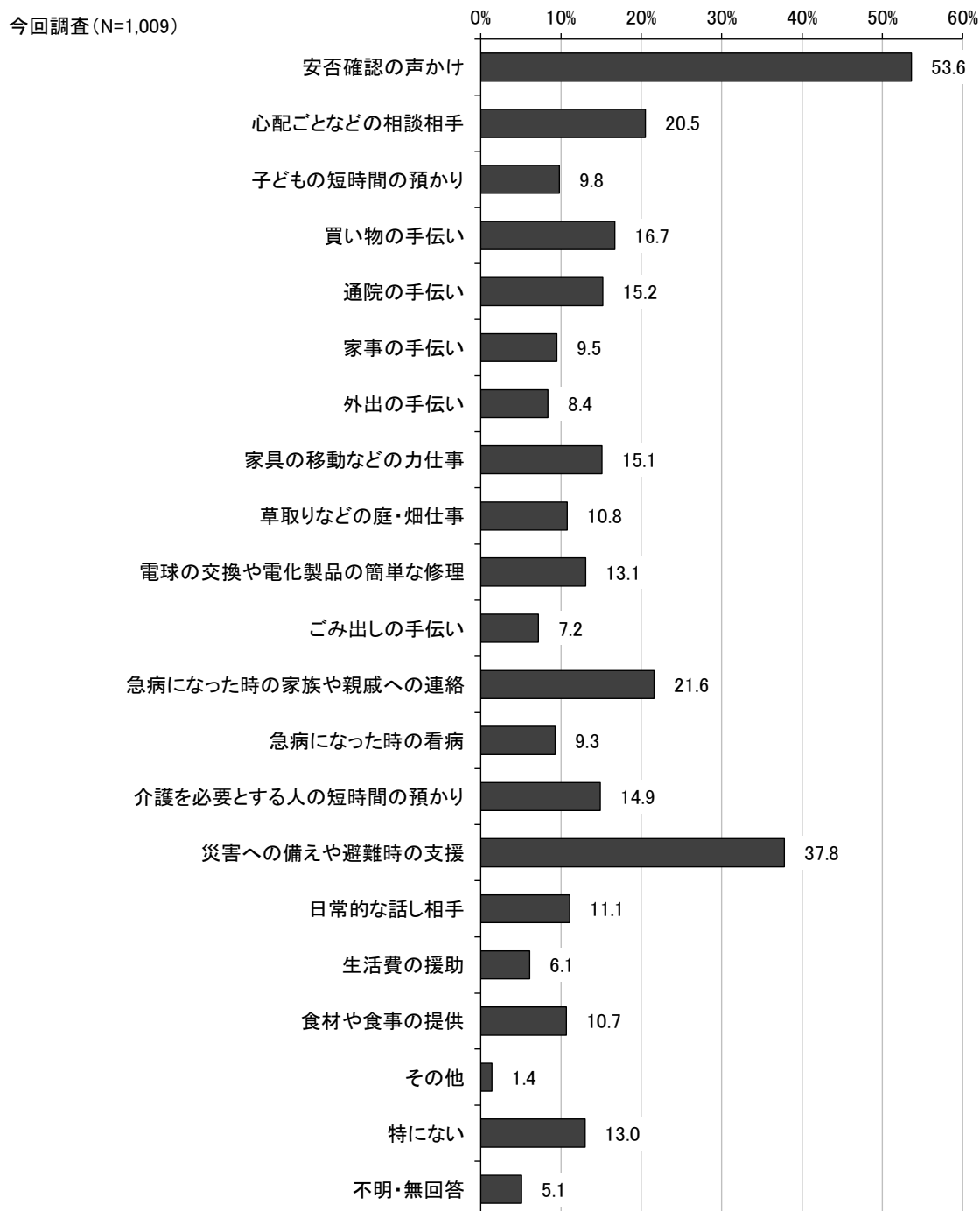
そのように考える理由についてみると、「対応の方法がわからず不安だから」が44.7%と最も高く、次いで「対応したいが忙しいから」が19.6%、「人とかかわりが苦手だから」が13.1%となっています。

前回調査と比較すると、「対応の方法がわからず不安だから」が15.7ポイント増加しています。



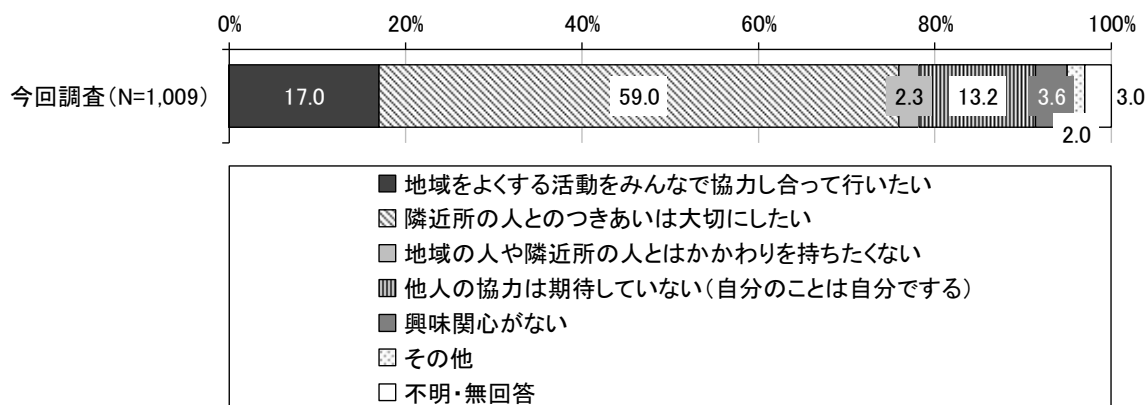
問7 あなたやご家族に助けが必要になった時、地域の人たちにどのような支援をしてほしいと思いますか。（複数回答）

本人やその家族に助けが必要になった時、地域の人たちに支援をしてほしい支援についてみると、「安否確認の声かけ」が53.6%と最も高く、次いで「災害への備えや避難時の支援」が37.8%、「急病になった時の家族や親戚への連絡」が21.6%となっています。



問8 地域での人と人とのかかわりについて、あなたのお考えに近いものをお選びください。（単数回答）

地域での人と人とのかかわりについての考え方についてみると、「隣近所の人とのつきあいは大切にしたい」が59.0%と最も高く、次いで「地域をよくする活動をみんなで協力し合って行いたい」が17.0%、「他人の協力は期待していない（自分のことは自分です）」が13.2%となっています。

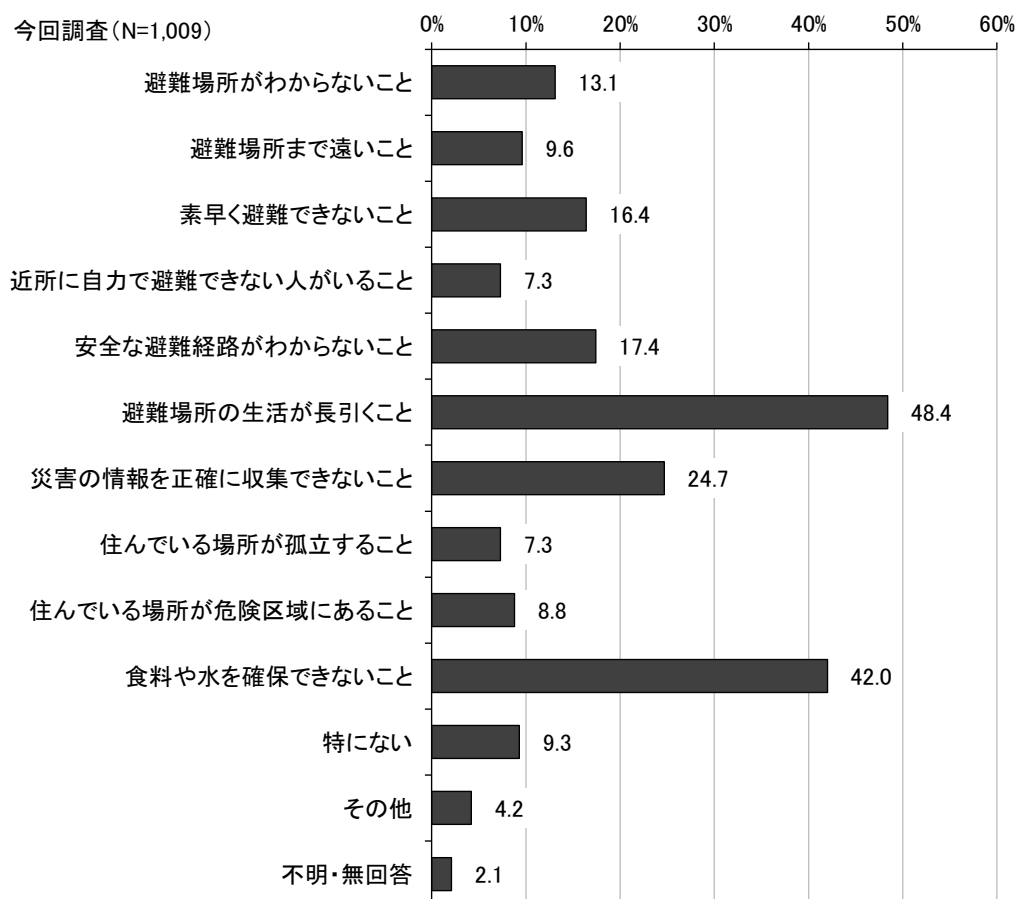




問9 近年、大災害が多発しています。あなたは、太宰府市で大災害（地震や台風、土砂災害など）が発生するおそれがある場合、どのようなことが不安ですか。

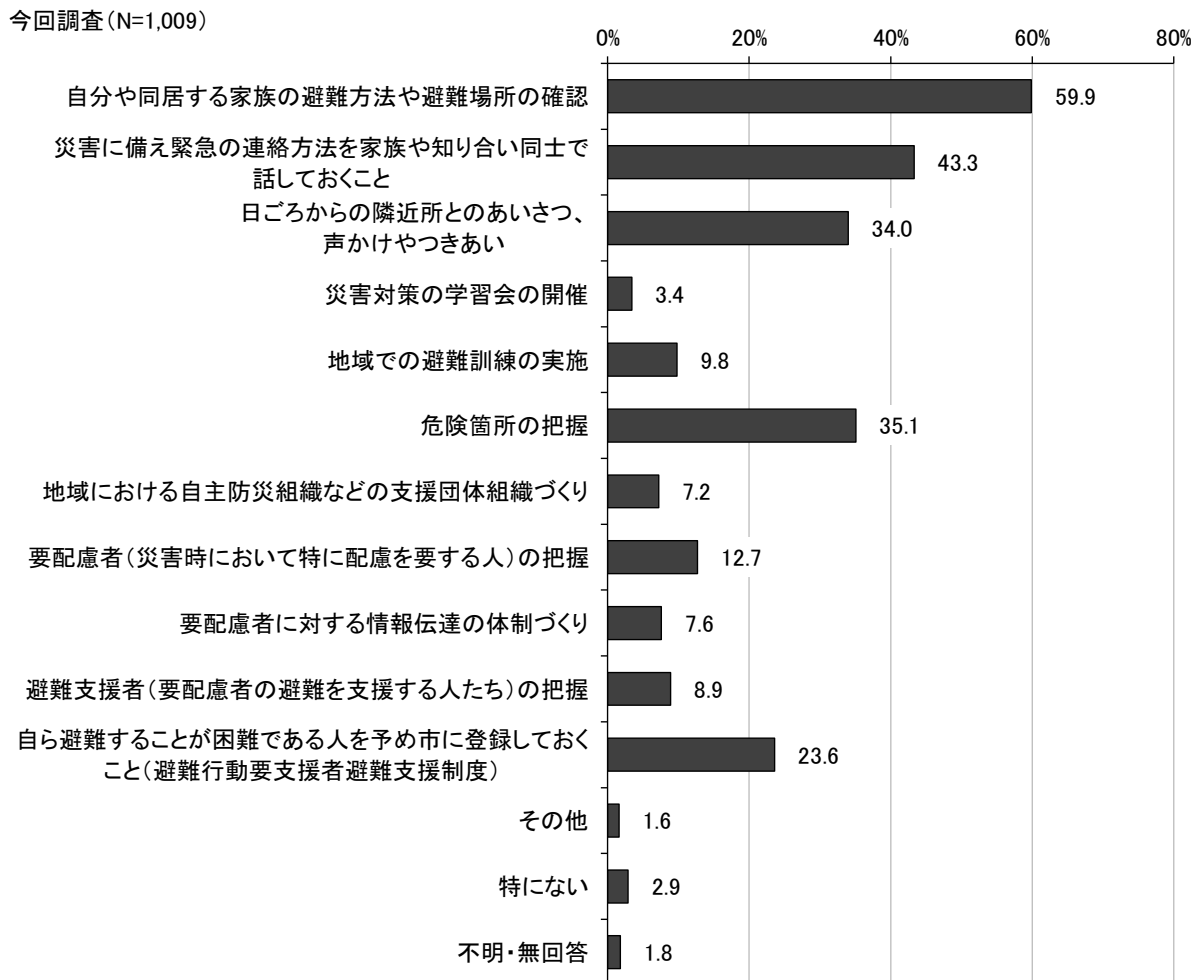
（3つまで複数回答）

太宰府市で大災害が発生するおそれがある場合の不安についてみると、「避難場所の生活が長引くこと」が48.4%と最も高く、次いで「食料や水を確保できないこと」が42.0%、「災害の情報を正確に収集できないこと」が24.7%となっています。



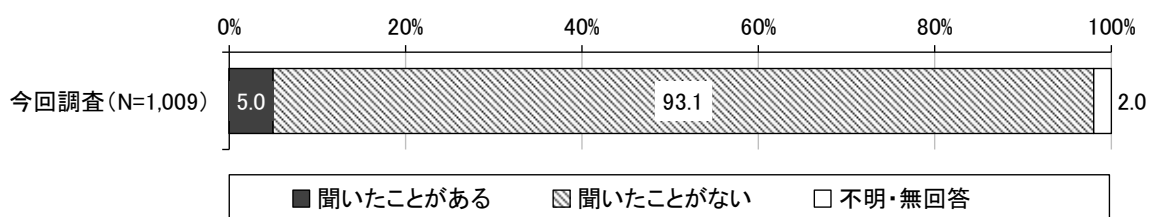
問10 地震や台風などの災害への備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。  
(3つまで複数回答)

災害への備えとして、重要だと思うことについてみると、「自分や同居する家族の避難方法や避難場所の確認」が59.9%と最も高く、次いで「災害に備え緊急の連絡方法を家族や知り合い同士で話しておくこと」が43.3%、「危険箇所の把握」が35.1%となっています。



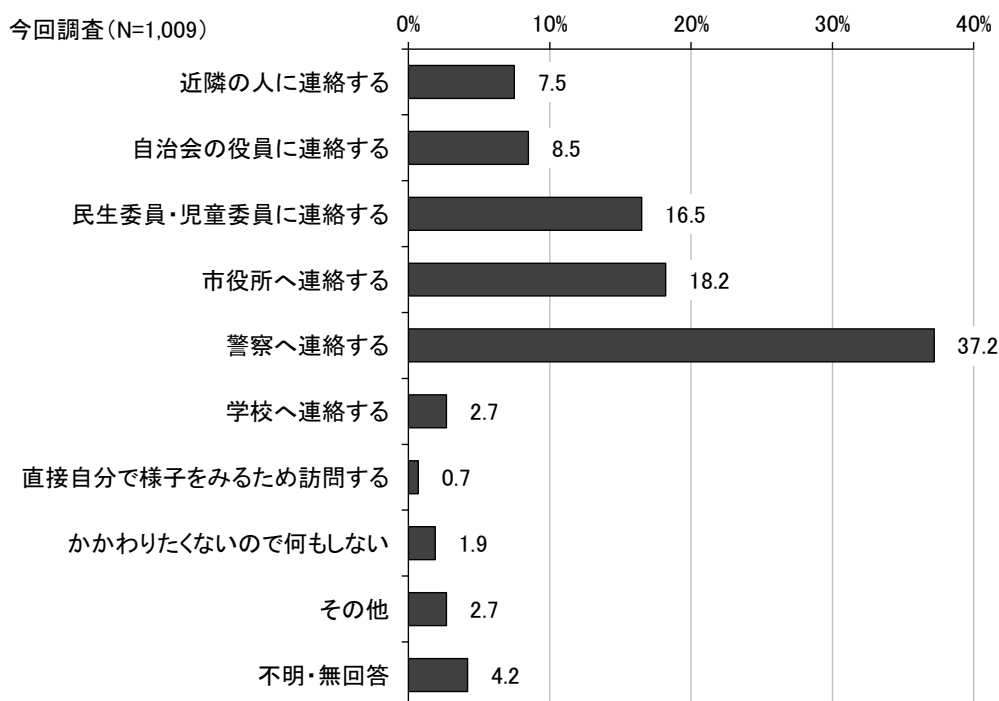
問11 あなたがお住まいの地域において、夫婦間の暴力や家族などによる虐待についてお聞きになったことがありますか。(単数回答)

お住まいの地域において、夫婦間の暴力や家族などによる虐待について聞いたことがあるかについてみると、「聞いたことがある」が5.0%、「聞いたことがない」が93.1%となっています。



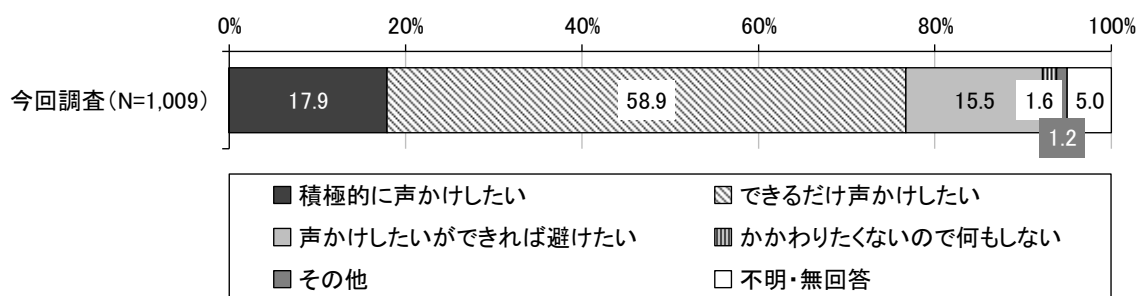
問 12 もしあなたの周囲で、虐待が発生している可能性がある場合、最初にどのように対応しますか。（単数回答）

周囲で虐待が発生している可能性がある場合の最初の対応についてみると、「警察へ連絡する」が37.2%と最も高く、次いで「市役所へ連絡する」が18.2%、「民生委員・児童委員に連絡する」が16.5%となっています。



問 13 認知症と思われる人がまちのなかで戸惑っている様子を見かけた時、あなた自身はどのように対応したいと思いますか。（単数回答）

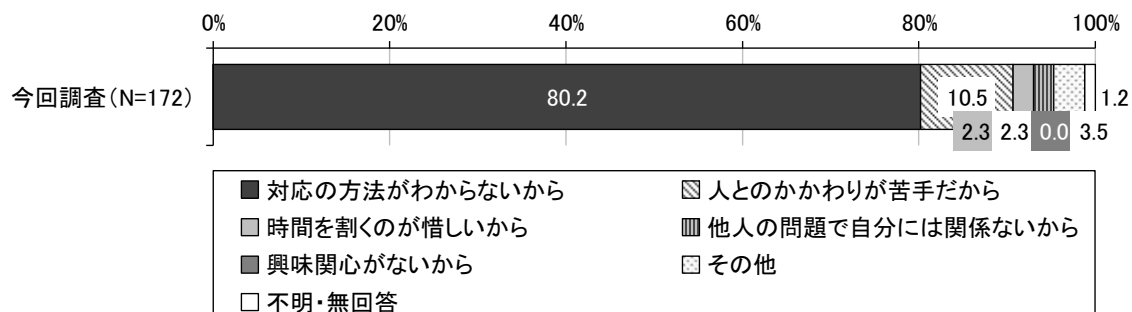
認知症と思われる人がまちのなかで戸惑っている様子を見かけた時の対応についてみると、「できるだけ声かけしたい」が58.9%と最も高く、次いで「積極的に声かけしたい」が17.9%、「声かけしたいができれば避けたい」が15.5%となっています。



問 13 で「声かけしたいができれば避けたい」、「かかわりたくないので何もしない」を選んだ方

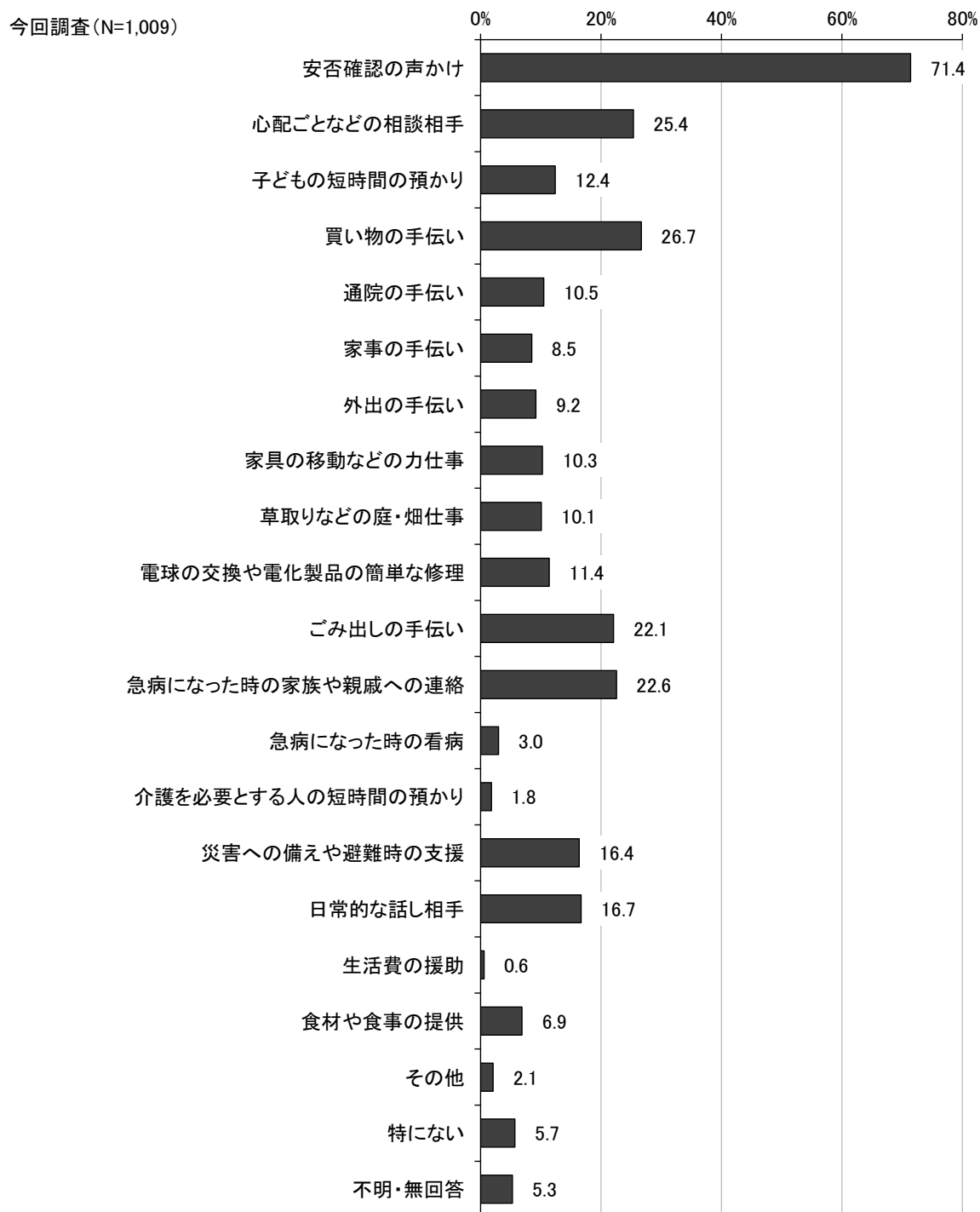
問 13-1 そのように考えるのはどのような理由からですか。（単数回答）

そのように考える理由についてみると、「対応の方法がわからないから」が 80.2%と最も高く、次いで「人とかかわりが苦手だから」が 10.5%、「その他」が 3.5%となっています。



問 14 あなたの身近なところで、困っている人がいた場合、あなた自身はどのような支援  
 ができると思いますか。（複数回答）

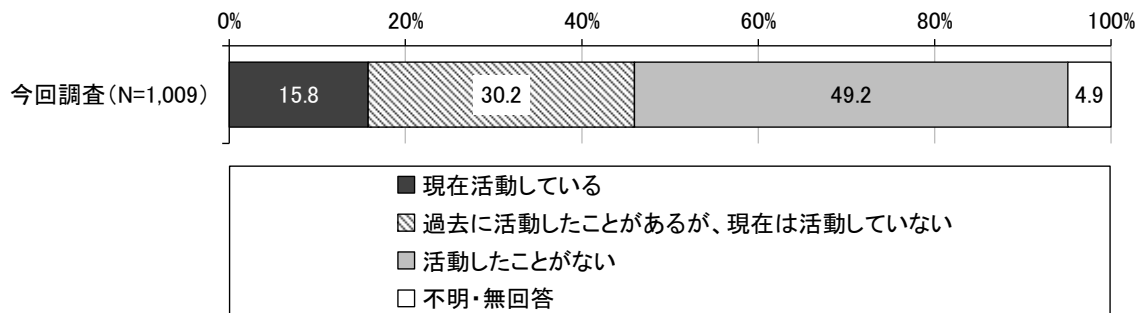
身近なところで困っている人がいた場合にできる支援についてみると、「安否確認の声かけ」が71.4%と最も高く、次いで「買い物の手伝い」が26.7%、「心配ごとなどの相談相手」が25.4%となっています。



## 4 地域活動やボランティア活動について

### 問 15 あなたは現在、自治会や子ども会、長寿クラブ（老人クラブ）の活動など、地域活動をしていますか。（単数回答）

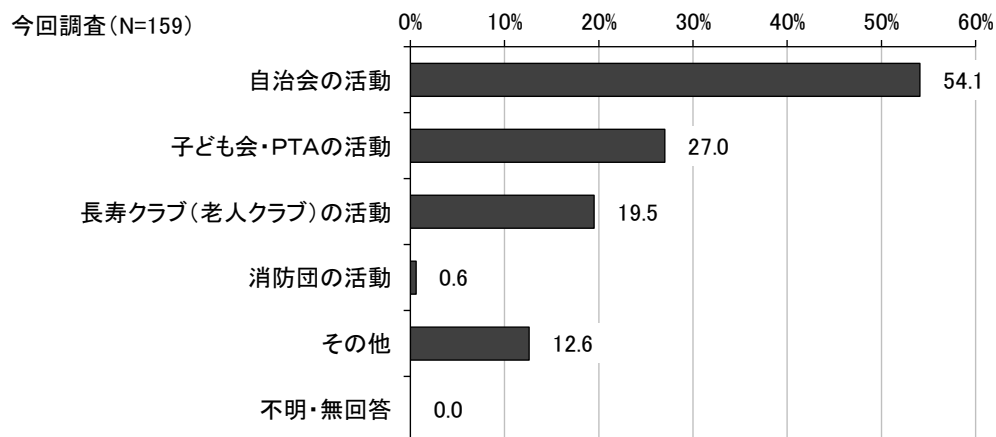
現在、地域活動をしているかについてみると、「活動したことがない」が 49.2%と最も高く、次いで「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」が 30.2%、「現在活動している」が 15.8%となっています。



### 問 15 で「現在活動している」を選んだ方

#### 問 15-1 どんな活動をしていますか。（複数回答）

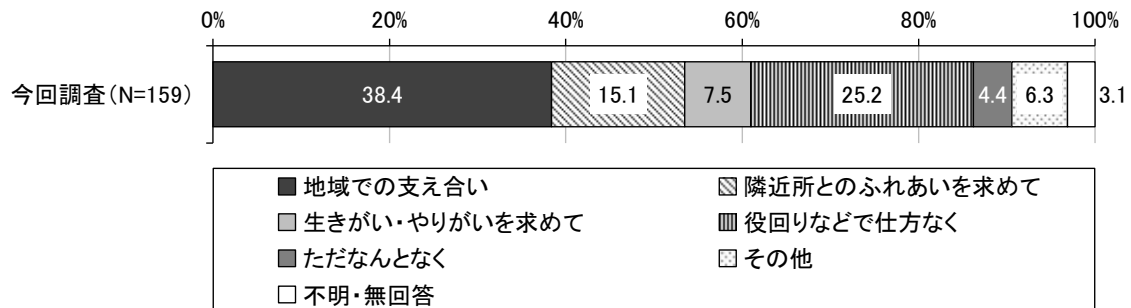
している地域活動についてみると、「自治会の活動」が 54.1%と最も高く、次いで「子ども会・PTAの活動」が 27.0%、「長寿クラブ（老人クラブ）の活動」が 19.5%となっています。



問 15 で「現在活動している」を選んだ方

問 15-2 どのような目的で活動していますか。（単数回答）

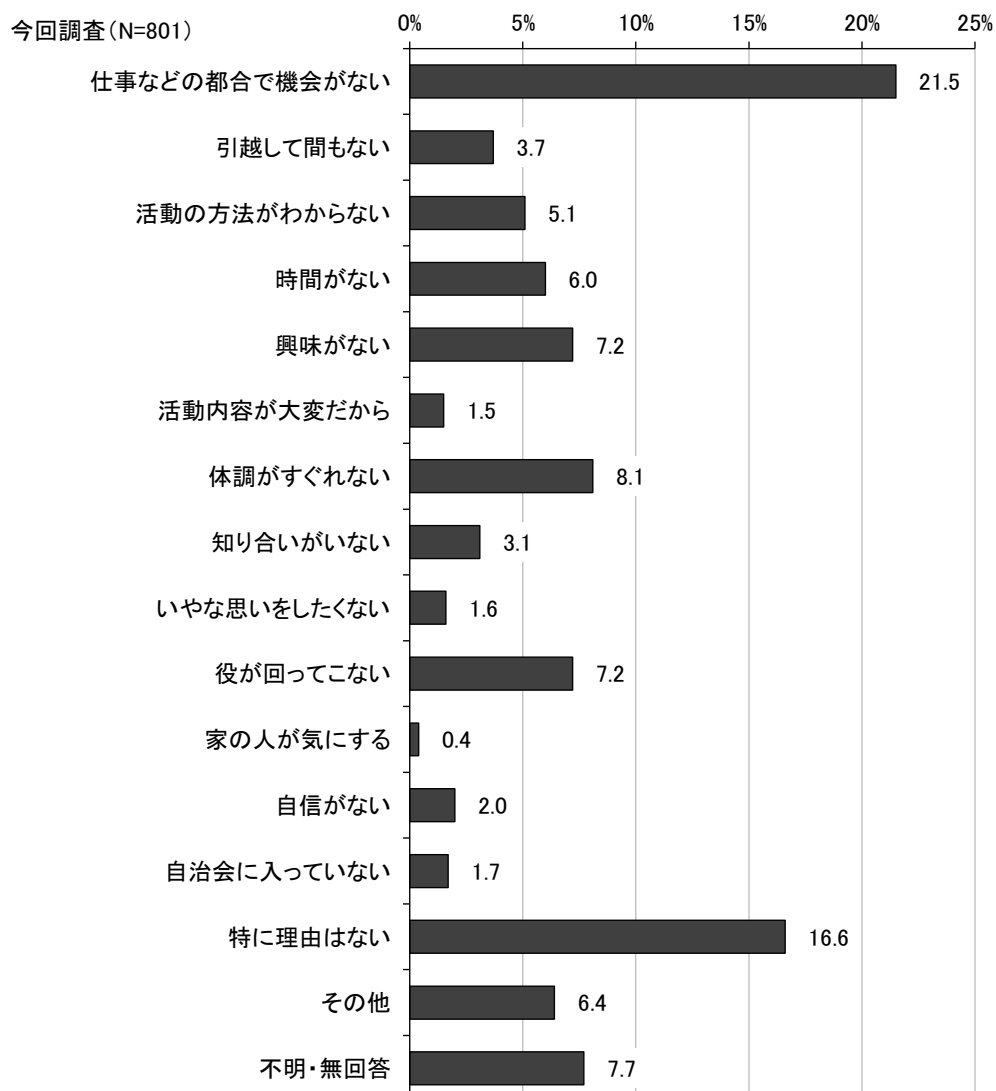
地域活動をしている目的についてみると、「地域での支え合い」が 38.4%と最も高く、次いで「役回りなどで仕方なく」が 25.2%、「隣近所とのふれあいを求めて」が 15.1%となっています。



問 15 で「過去に活動したことがあるが、現在は活動していない」、「活動したことがない」を選んだ方

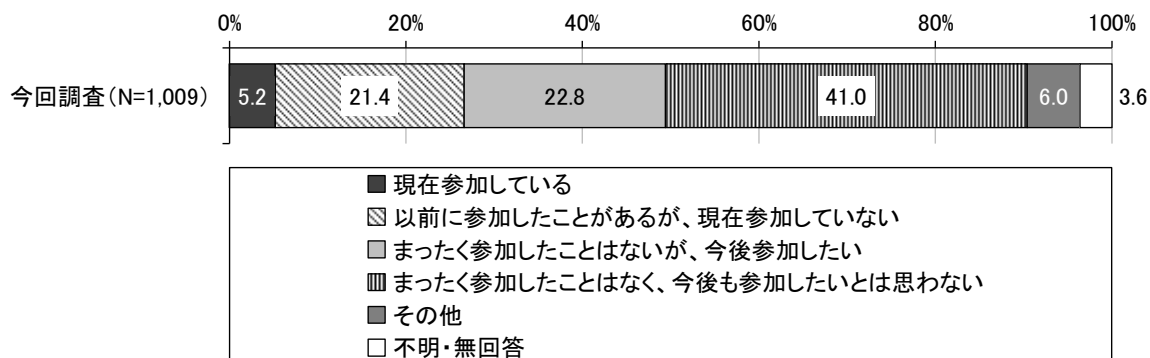
問 15-3 現在活動していない理由は何ですか。（単数回答）

地域活動をしていない理由についてみると、「仕事などの都合で機会がない」が 21.5%と最も高く、次いで「特に理由はない」が 16.6%、「体調がすぐれない」が 8.1%となっています。



問 16 あなたは、問 15 のような地域での活動以外に、個人的にボランティア活動や NPO の活動に参加したことがありますか。（単数回答）

問 15 のような地域での活動以外に、個人的にボランティア活動や NPO の活動に参加したことがあるかについてみると、「まったく参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」が 41.0%と最も高く、次いで「まったく参加したことはないが、今後参加したい」が 22.8%、「以前に参加したことがあるが、現在参加していない」が 21.4%となっています。

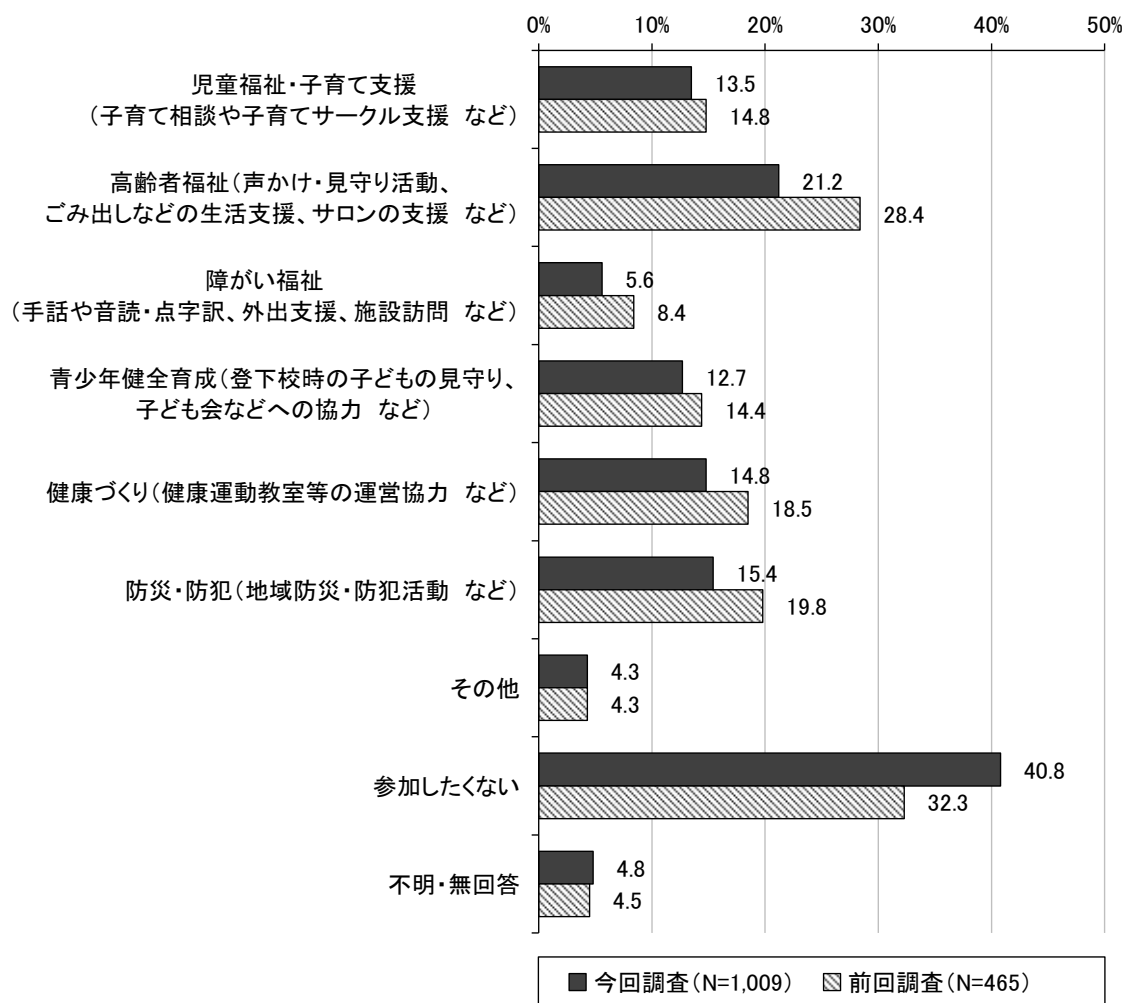




問 17 あなたは、今後、次のような福祉にかかわる地域活動やボランティア活動などに参加したいと思いますか。（複数回答）

今後、福祉にかかわる地域活動やボランティア活動などに参加したいかについてみると、「参加したくない」が40.8%と最も高く、次いで「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、ごみ出しなどの生活支援、サロンの支援 など）」が21.2%、「防災・防犯（地域防災・防犯活動 など）」が15.4%となっています。

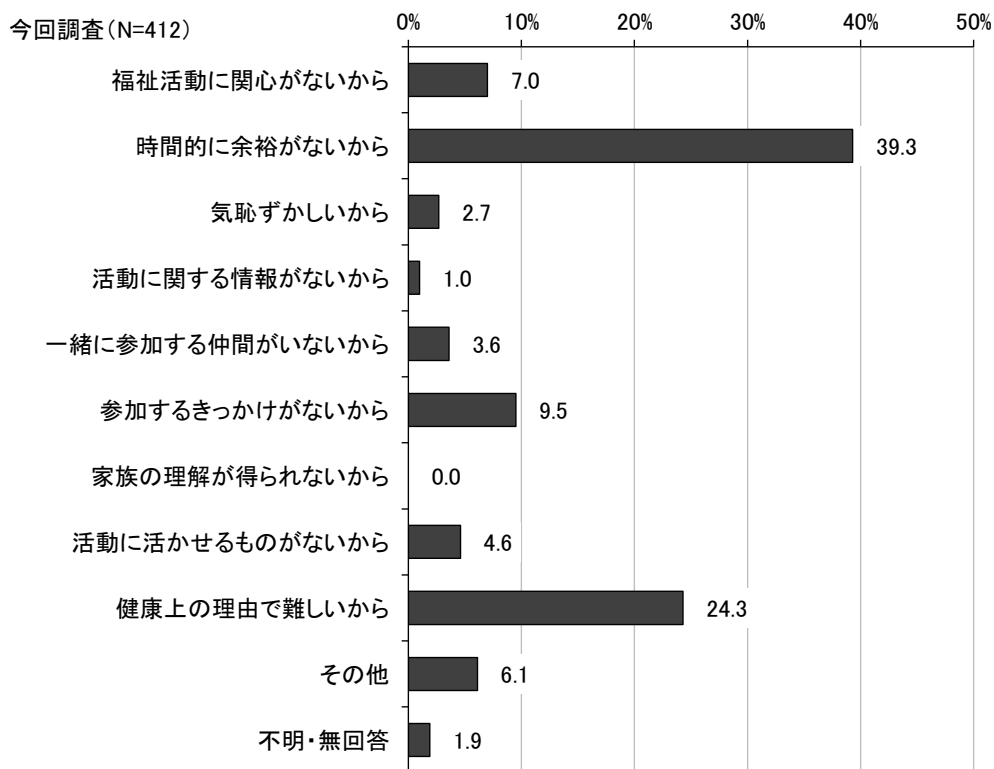
前回調査と比較すると、「参加したくない」が8.5ポイント、「高齢者福祉（声かけ・見守り活動、ごみ出しなどの生活支援、サロンの支援 など）」が7.2ポイント増加しています。



## 問 17で「参加したくない」を選んだ方

### 問 17-1 参加したくないのはなぜですか。（単数回答）

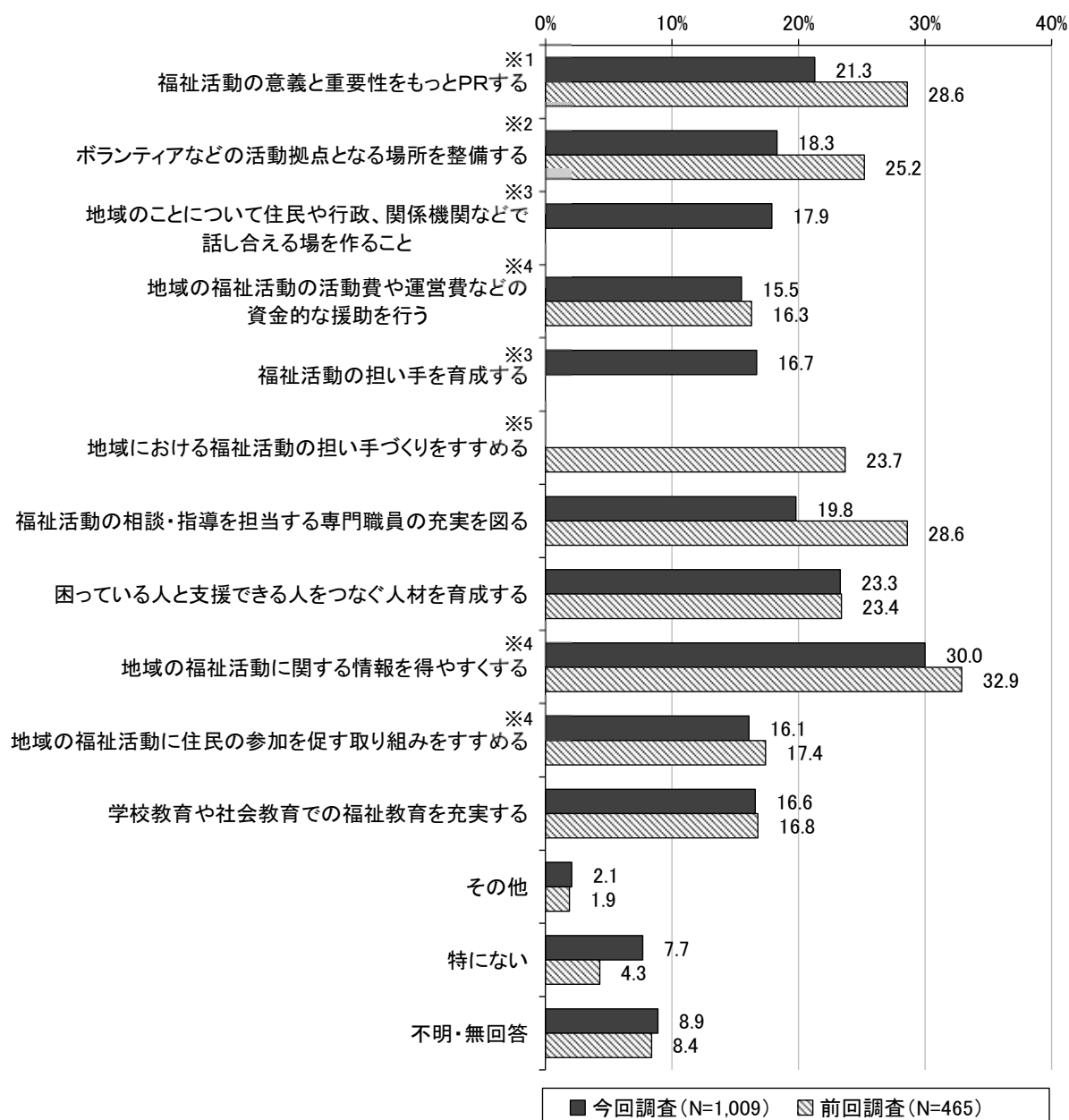
地域活動やボランティア活動などに参加したくない理由についてみると、「時間的に余裕がないから」が39.3%と最も高く、次いで「健康上の理由で難しいから」が24.3%、「参加するきっかけがないから」が9.5%となっています。



問 18 今後、地域における支え合いや助け合いの活動を活発にしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで複数回答）

今後、地域における支え合いや助け合いの活動を活発にしていくために重要なことについてみると、「地域の福祉活動に関する情報を得やすくする」が30.0%と最も高く、次いで「困っている人と支援できる人をつなぐ人材を育成する」が23.3%、「福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が21.3%となっています。

前回調査と比較すると、前回調査では6番目に数値の高かった「困っている人と支援できる人をつなぐ人材を育成する」が今回調査では2番目に高くなっています。



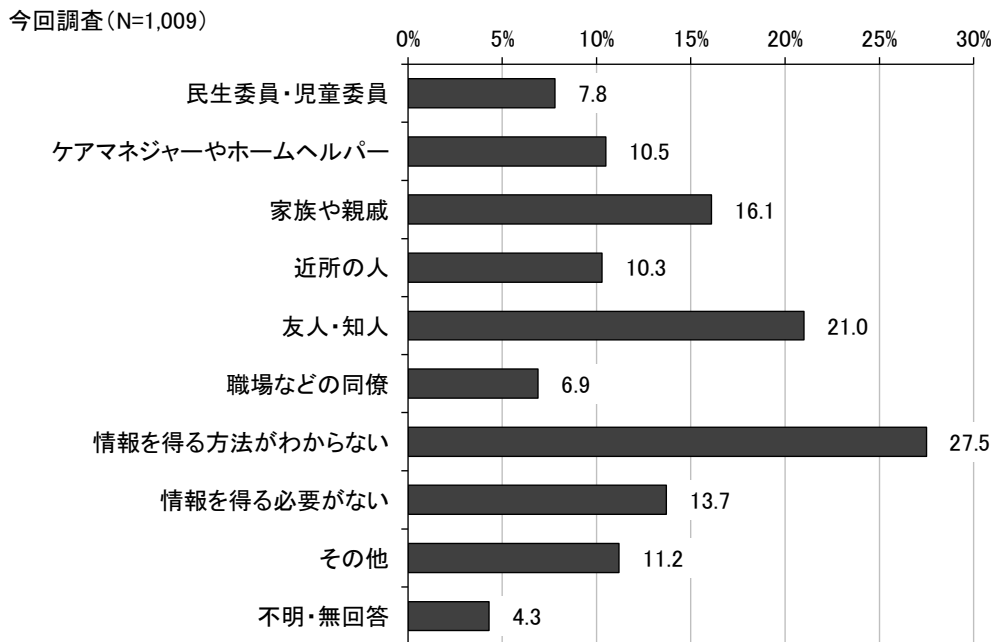
- ※1 前回調査では文頭に「地域における」という文言がある
- ※2 前回調査では文頭に「地域で」という文言がある
- ※3 今回調査のみの選択肢
- ※4 今回調査の「地域の」という文言は、前回調査では「地域における」となっている
- ※5 前回調査のみの選択肢

## 5 福祉サービスについて

問 19 あなたは、現在、「福祉サービス」に関する情報について、どのように入手していますか。

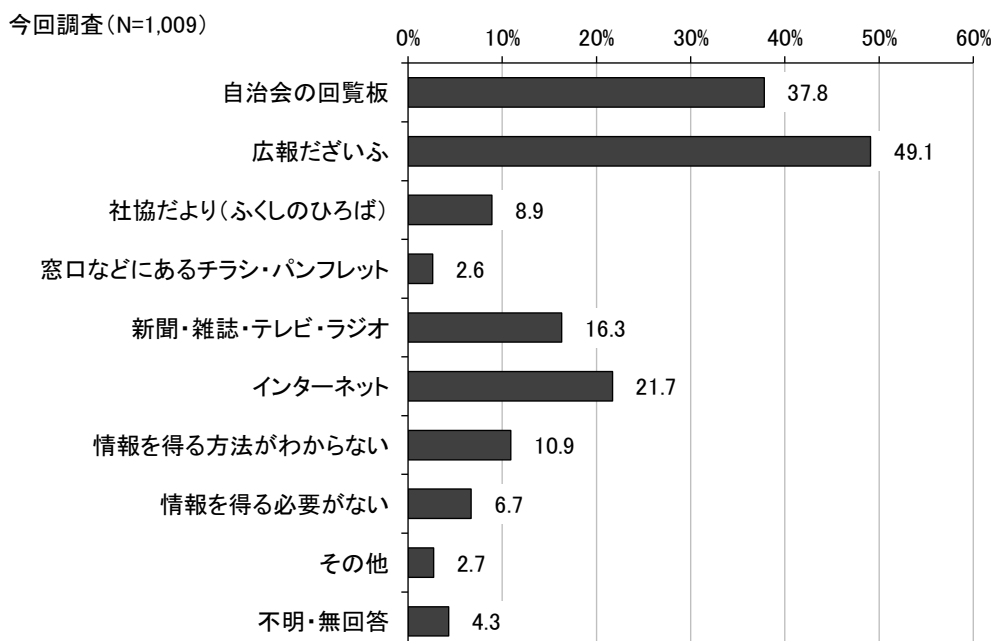
### ① 誰から入手していますか。（2つまで複数回答）

「福祉サービス」に関する情報を入手している相手についてみると、「情報を得る方法がわからない」が27.5%と最も高く、次いで「友人・知人」が21.0%、「家族や親戚」が16.1%となっています。



### ② どんな媒体から入手していますか。（2つまで複数回答）

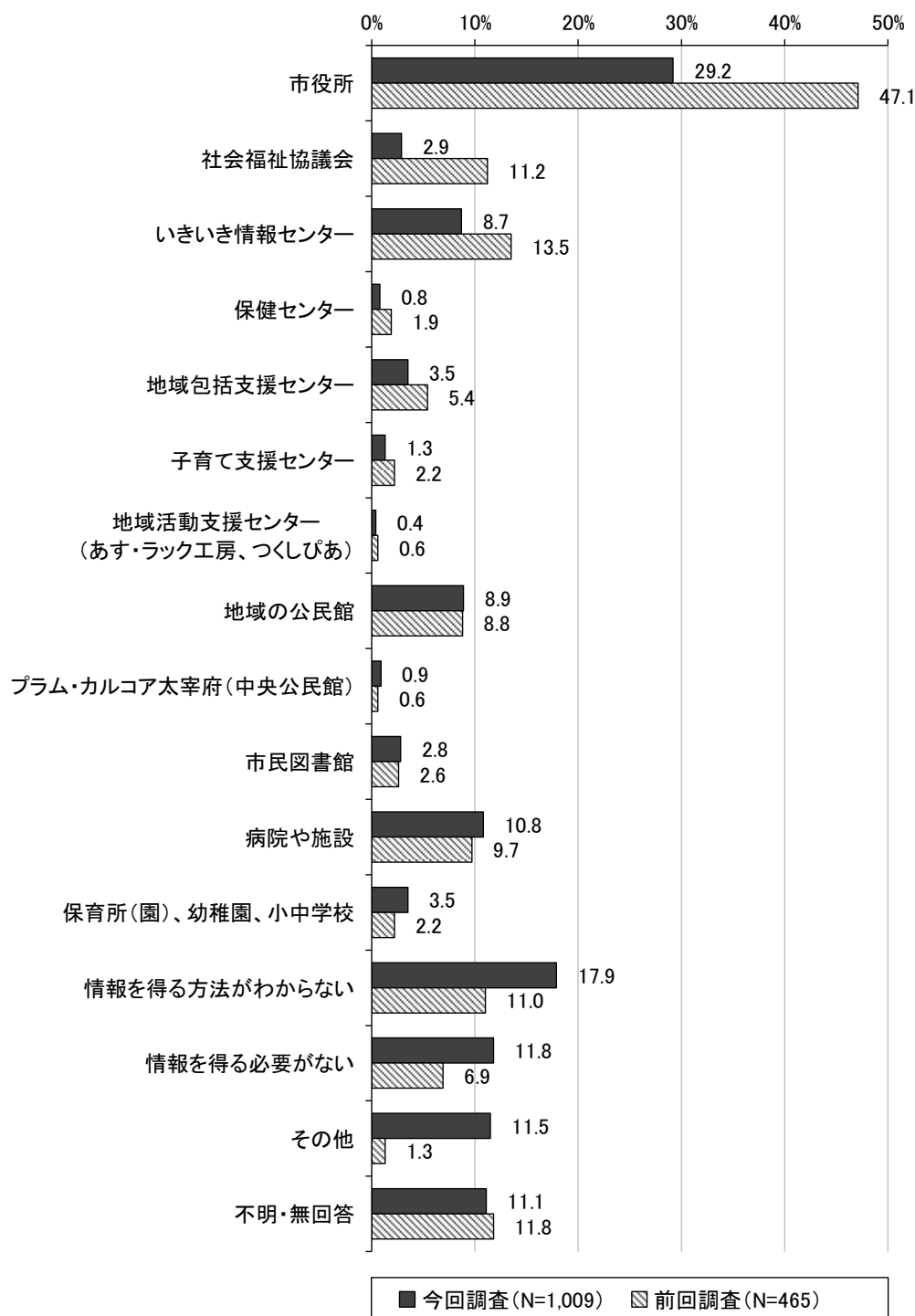
「福祉サービス」に関する情報を入手している媒体についてみると、「広報だざいふ」が49.1%と最も高く、次いで「自治会の回覧板」が37.8%、「インターネット」が21.7%となっています。



### ③ どこで入手していますか。（2つまで複数回答）

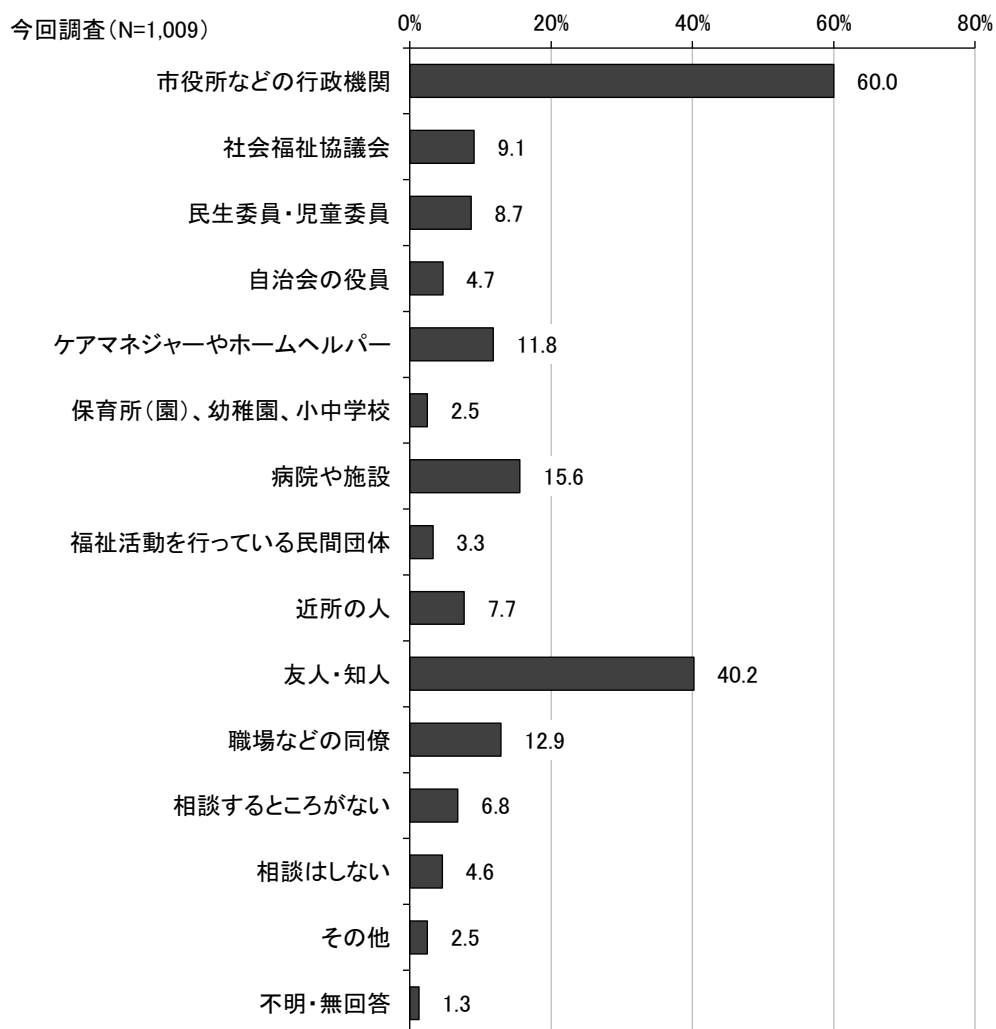
「福祉サービス」に関する情報の入手先についてみると、「市役所」が29.2%と最も高く、次いで「情報を得る方法がわからない」が17.9%、「情報を得る必要がない」が11.8%となっています。

前回調査と比較すると、「市役所」が17.9ポイント、「社会福祉協議会」が8.3ポイント減少し、「情報を得る方法がわからない」が6.9ポイント、「情報を得る必要がない」が4.9ポイント増加しています。



問 20 あなた自身やご家族が、生活上の困りごとを抱えた時、家族以外で、どこ（誰）に相談しますか。（3つまで複数回答）

本人やその家族が、生活上の困りごとを抱えた時、家族以外で相談する相手についてみると、「市役所などの行政機関」が60.0%と最も高く、次いで「友人・知人」が40.2%、「病院や施設」が15.6%となっています。

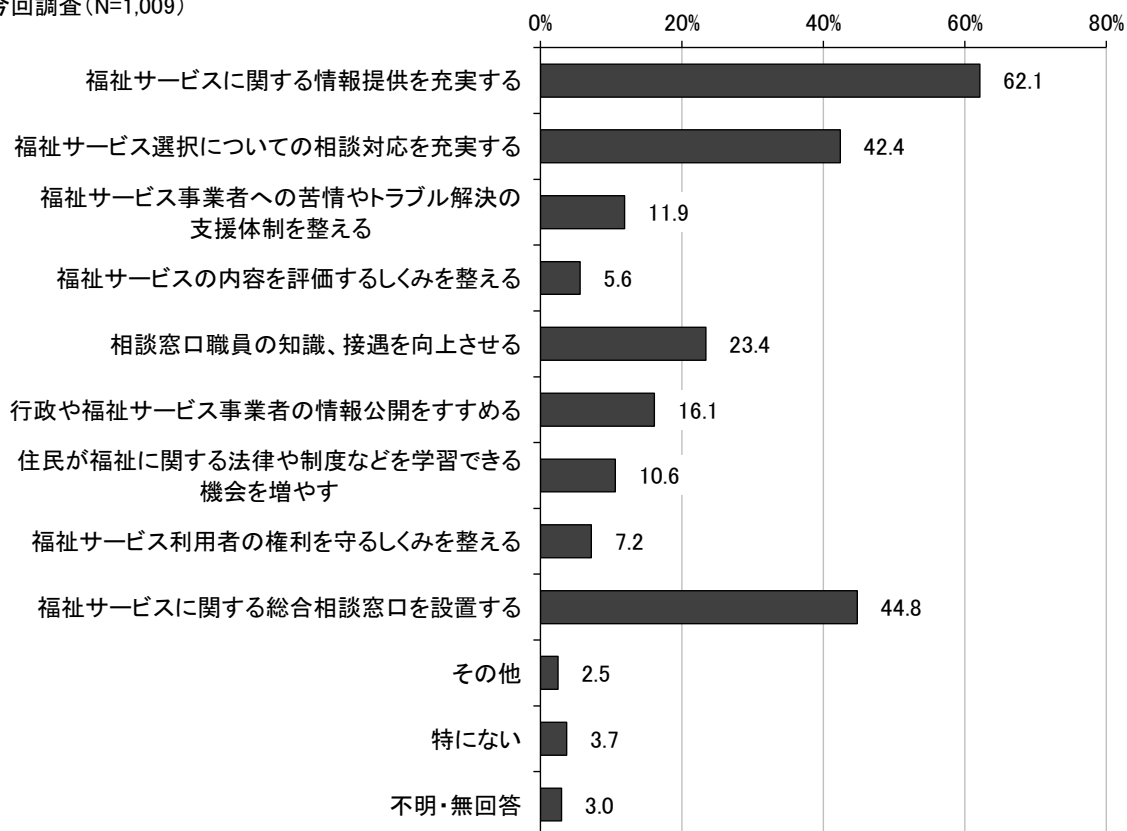


問21 福祉サービス利用者が、自分に最適な福祉サービスを選び、安心して利用するため、市役所ではどのようなことに取り組む必要があると思いますか。

(3つまで複数回答)

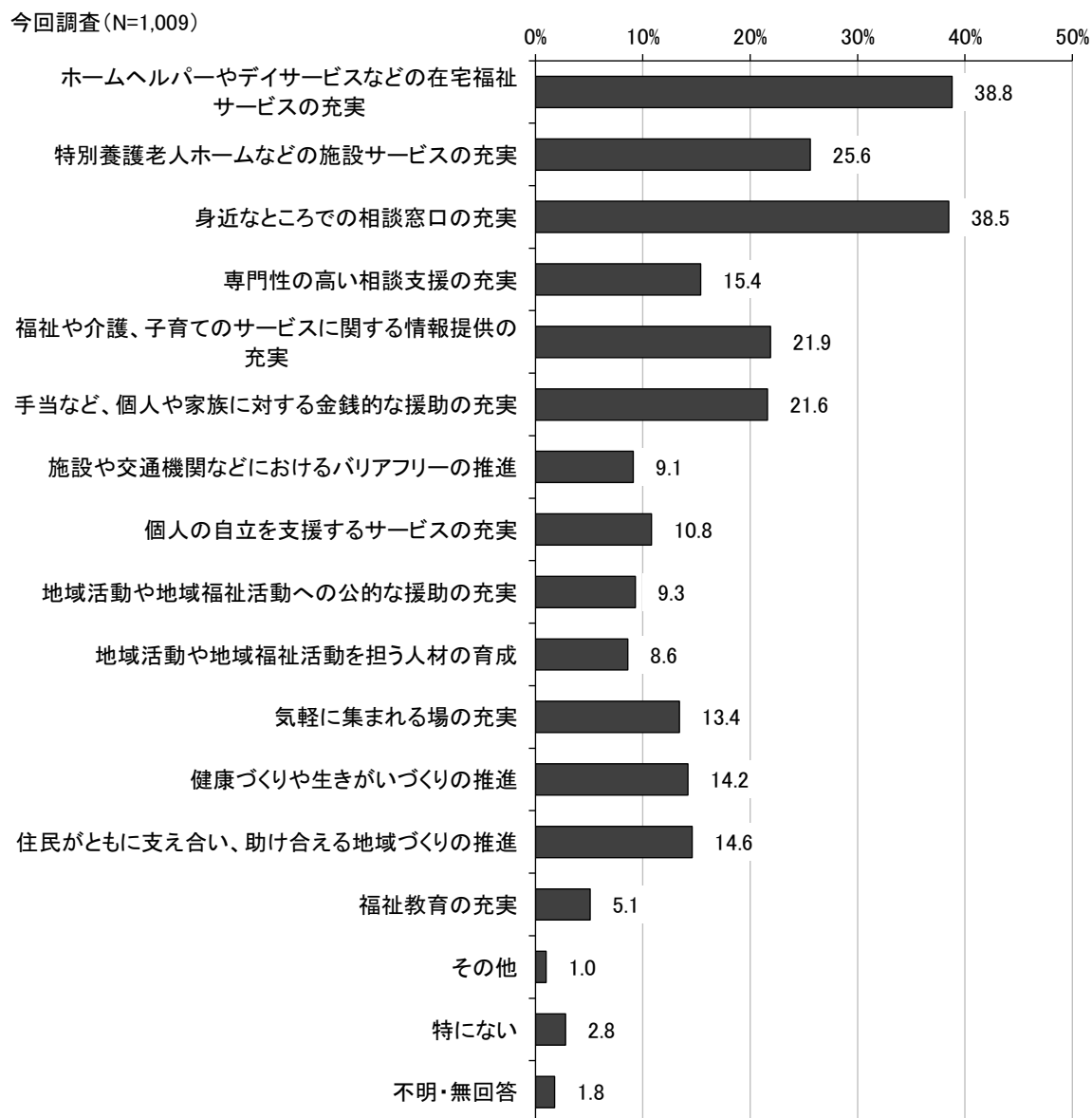
自分に最適な福祉サービスを選び、安心して利用するため、市役所が対応する必要のある取り組みについてみると、「福祉サービスに関する情報提供を充実する」が62.1%と最も高く、次いで「福祉サービスに関する総合相談窓口を設置する」が44.8%、「福祉サービス選択についての相談対応を充実する」が42.4%となっています。

今回調査(N=1,009)



問 22 住民が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくためには、どのような福祉のあり方が大切だと思いますか。（3つまで複数回答）

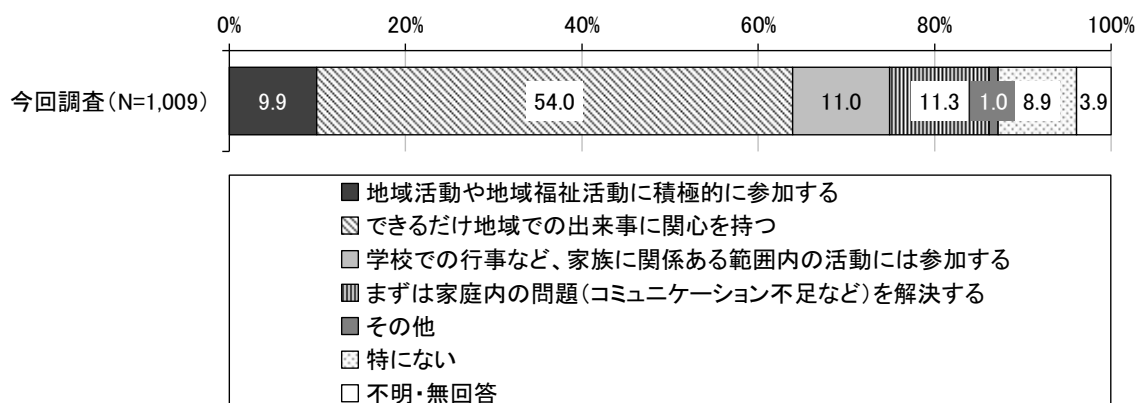
住民が住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために大切な福祉のあり方についてみると、「ホームヘルパーやデイサービスなどの在宅福祉サービスの充実」が38.8%と最も高く、次いで「身近なところでの相談窓口の充実」が38.5%、「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」が25.6%となっています。





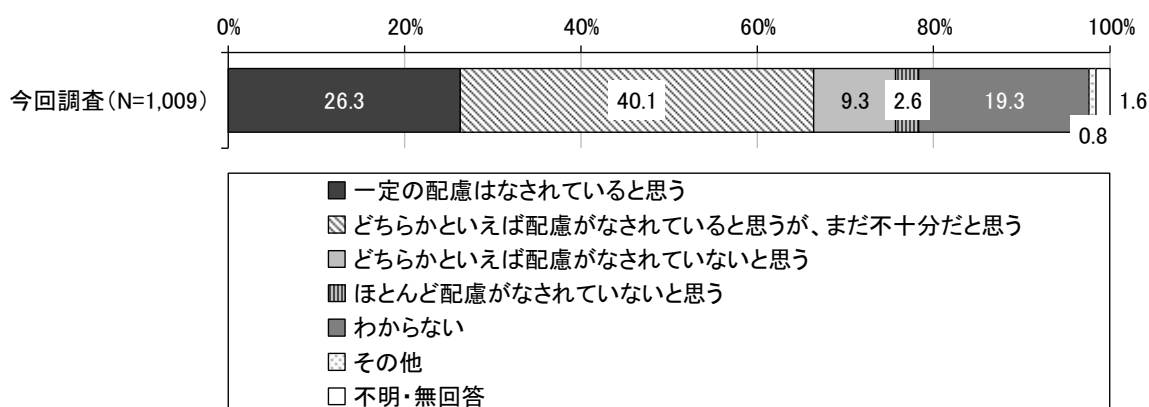
問 23 私たち一人ひとりが安心して地域のなかで暮らしていくために、市民のひとりとして、あなたができることはどんなことがあると思いますか。（単数回答）

一人ひとりが安心して地域のなかで暮らしていくためにできることについてみると、「できるだけ地域での出来事に関心を持つ」が54.0%と最も高く、次いで「まずは家庭内の問題（コミュニケーション不足など）を解決する」が11.3%、「学校での行事など、家族に関係ある範囲内の活動には参加する」が11.0%となっています。



問 24 あなたは日ごろの生活のなかで、障がいのある人への配慮がなされている、または、なされていない（差別がある）と感じたことがありますか。（単数回答）

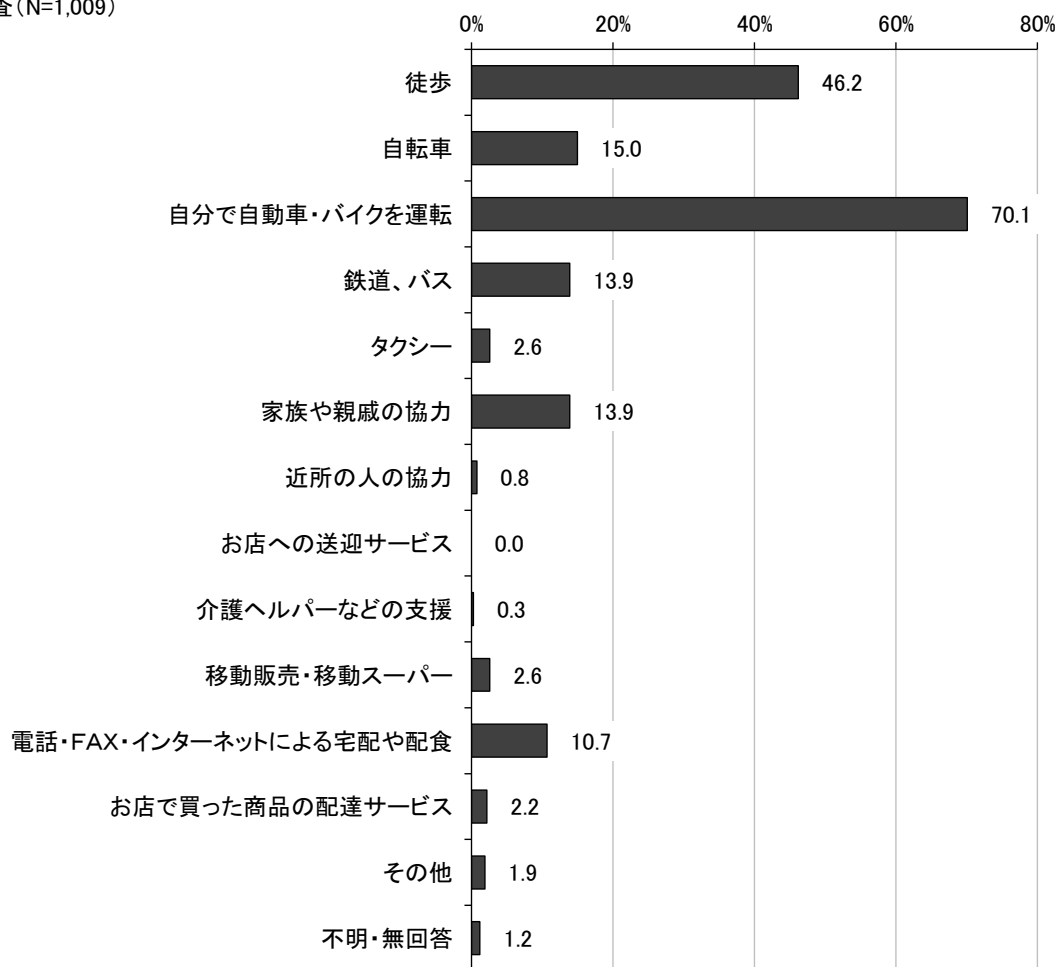
日ごろの生活のなかで、障がいのある人への配慮について感じたことについてみると、「どちらかといえば配慮がなされていると思うが、まだ不十分だと思う」が40.1%と最も高く、次いで「一定の配慮はなされていると思う」が26.3%、「わからない」が19.3%となっています。



## 問 25 あなたはどのような方法で買い物をしていますか。（3つまで複数回答）

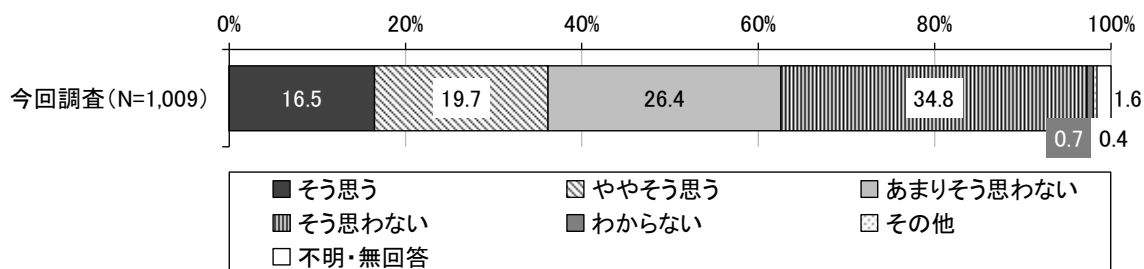
買い物をしている方法についてみると、「自分で自動車・バイクを運転」が70.1%と最も高く、次いで「徒歩」が46.2%、「自転車」が15.0%となっています。

今回調査(N=1,009)



## 問 26 あなたは問 25 で回答した方法で買い物を行ったうえで、住んでいる場所が買い物に不便だと思いますか。（単数回答）

問 25 で回答した方法で買い物を行ったうえで、住んでいる場所が買い物に不便だと思うかについてみると、「そう思わない」が34.8%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が26.4%、「ややそう思う」が19.7%となっています。

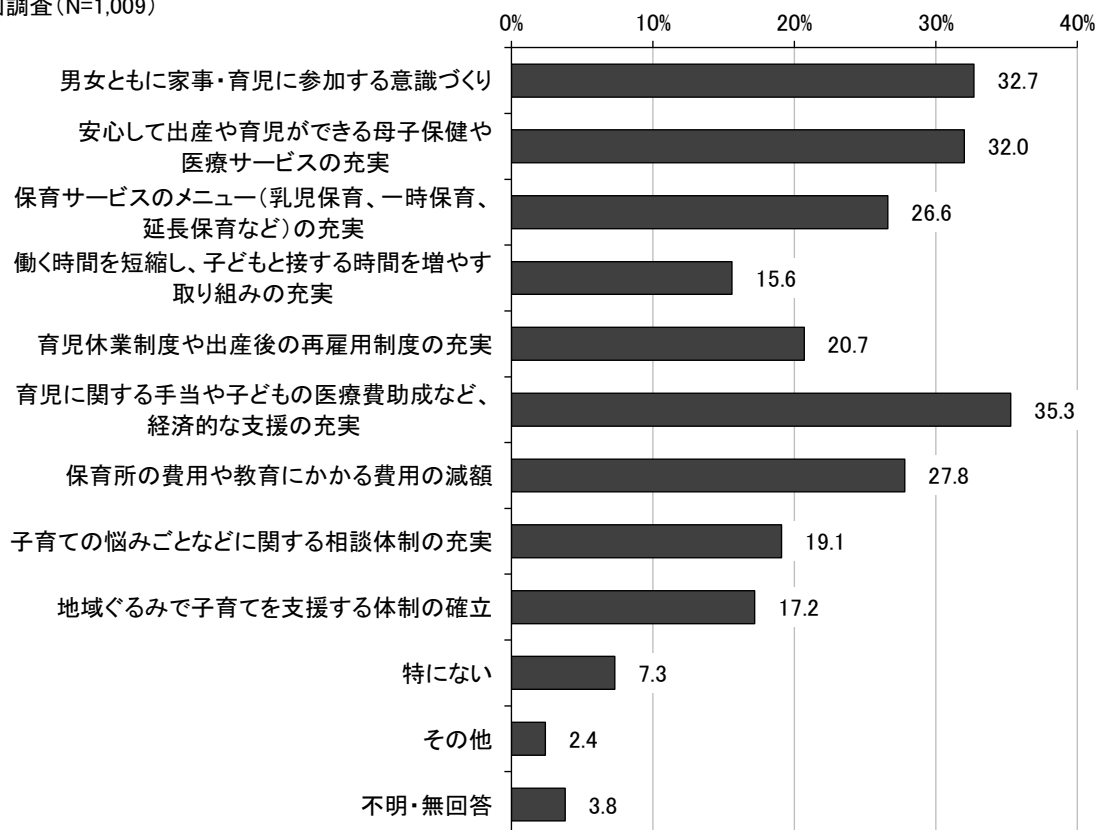


## 6 これからの福祉のあり方について

問 27 子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（3つまで複数回答）

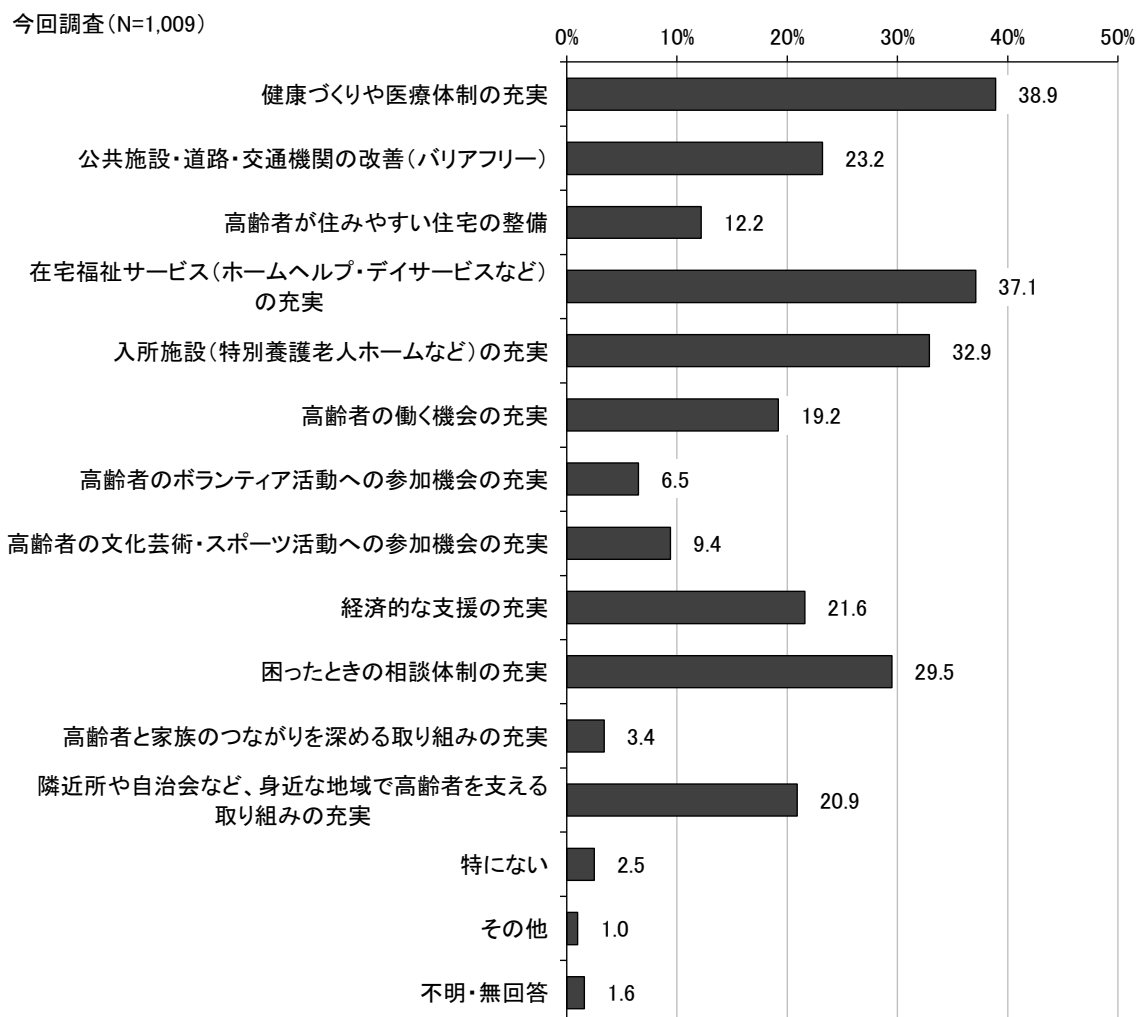
子どもたちやその家族が住みよいまちをつくるために重要なことについてみると、「育児に関する手当や子どもの医療費助成など、経済的な支援の充実」が35.3%と最も高く、次いで「男女ともに家事・育児に参加する意識づくり」が32.7%、「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスの充実」が32.0%、「安心して出産や育児ができる母子保健や医療サービスの充実」が32.0%となっています。

今回調査(N=1,009)



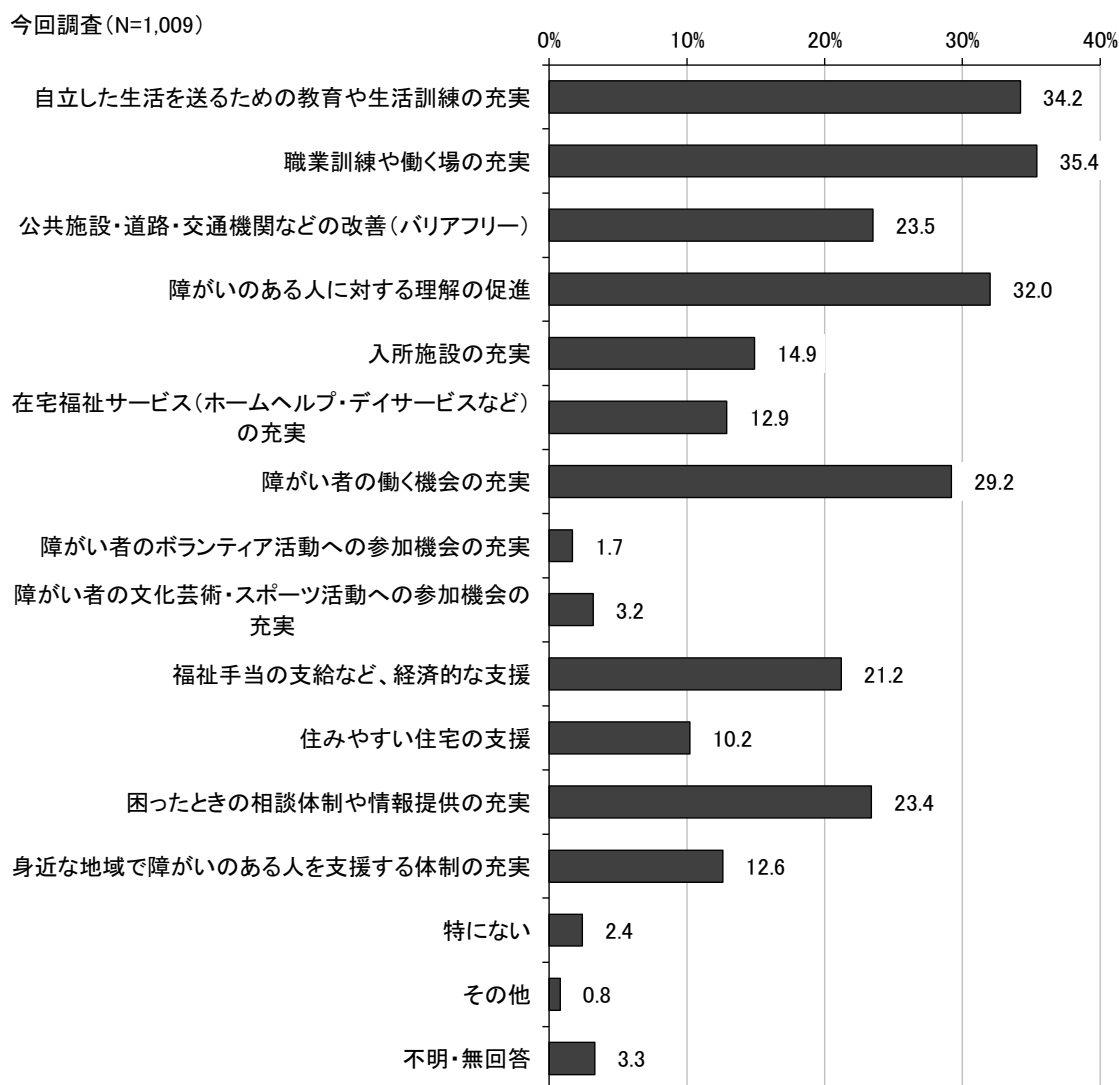
問 28 高齢者の人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（3つまで複数回答）

高齢者の人たちが住みよいまちをつくるために重要なことについてみると、「健康づくりや医療体制の充実」が38.9%と最も高く、次いで「在宅福祉サービス（ホームヘルプ・デイサービスなど）の充実」が37.1%、「入所施設（特別養護老人ホームなど）の充実」が32.9%となっています。



問 29 障がいのある人たちが住みよいまちをつくるために、今後、どのようなことが重要だと考えますか。（3つまで複数回答）

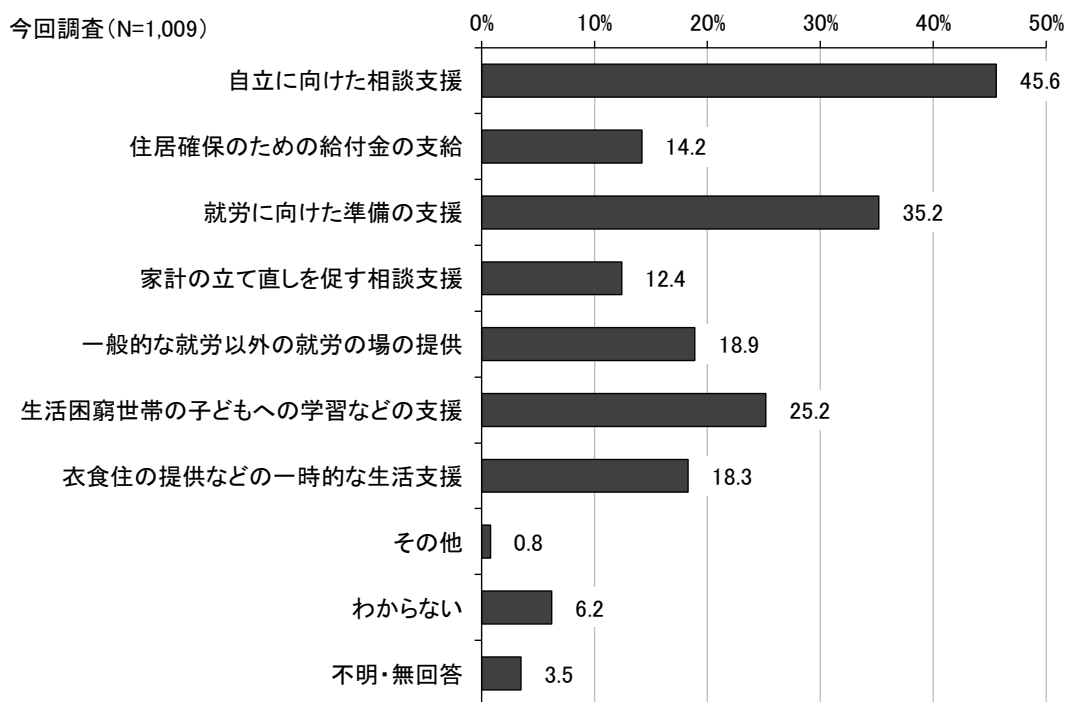
障がいのある人たちが住みよいまちをつくるために重要なことについてみると、「職業訓練や働く場の充実」が35.4%と最も高く、次いで「自立した生活を送るための教育や生活訓練の充実」が34.2%、「障がいのある人に対する理解の促進」が32.0%となっています。



## 7 生活困窮者支援・ひきこもりについて

問 30 生活困窮者（就労したくてもできない、住居がない方など）を支援するためどのような施策が重要だと思いますか。（2つまで複数回答）

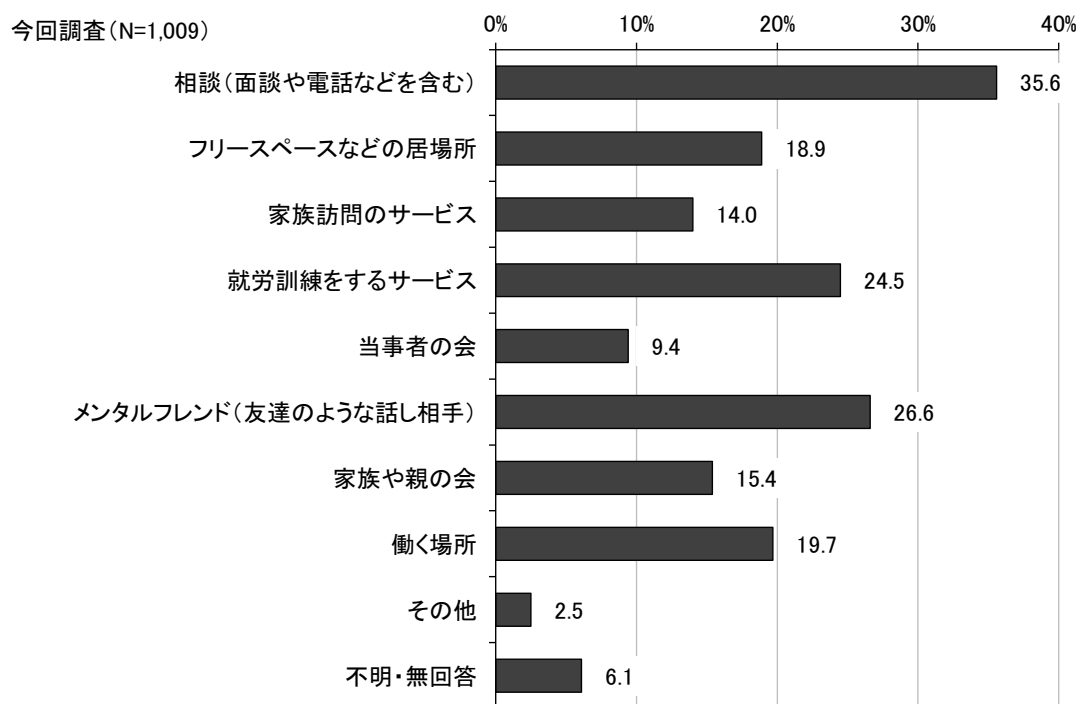
生活困窮者を支援するために重要な施策についてみると、「自立に向けた相談支援」が 45.6%と最も高く、次いで「就労に向けた準備の支援」が 35.2%、「生活困窮世帯の子どもへの学習などの支援」が 25.2%となっています。



問 31 ひきこもり当事者に対して、行政に取り組んでほしいことは何ですか。

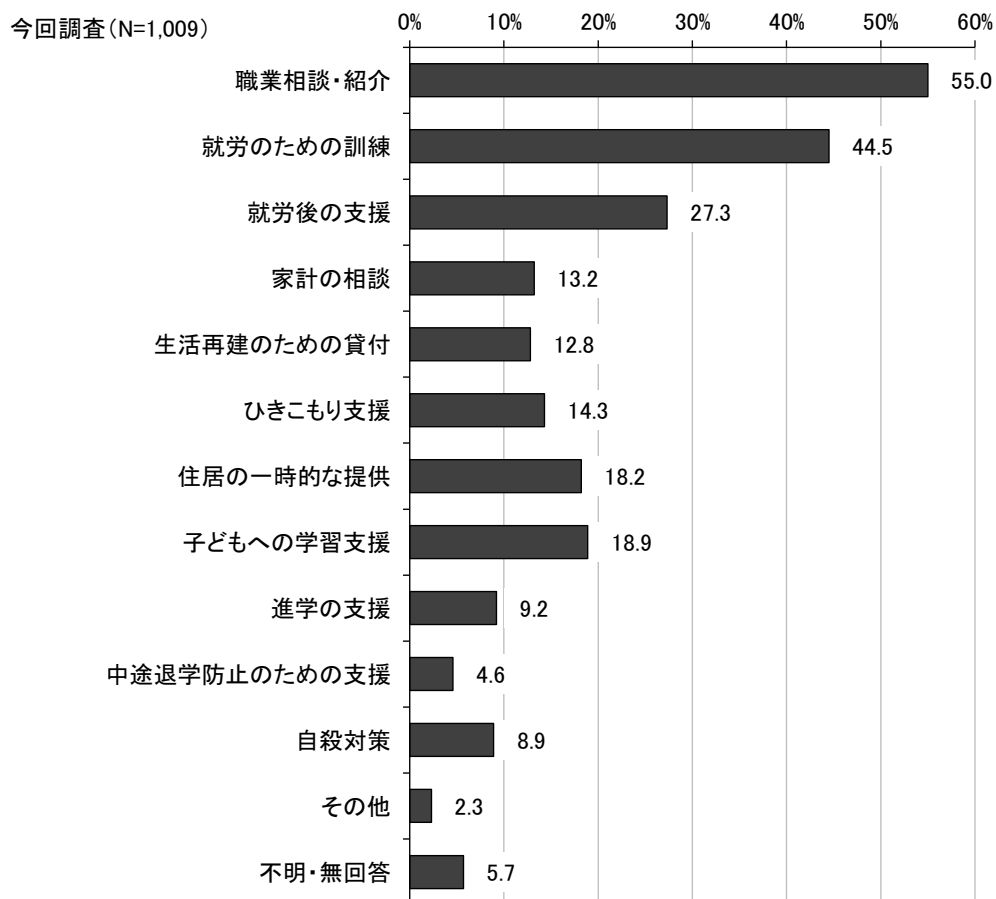
(2つまで複数回答)

ひきこもり当事者に対して、行政に取り組んでほしいことについてみると、「相談(面談や電話などを含む)」が35.6%と最も高く、次いで「メンタルフレンド(友達のような話し相手)」が26.6%、「就労訓練をするサービス」が24.5%となっています。



問 32 生活困窮の問題や支援制度について、あなた自身は具体的にどのような支援が最も必要だと思いますか。（3つまで複数回答）

生活困窮の問題や支援制度について、最も必要な支援についてみると、「職業相談・紹介」が 55.0%と最も高く、次いで「就労のための訓練」が 44.5%、「就労後の支援」が 27.3%となっています。

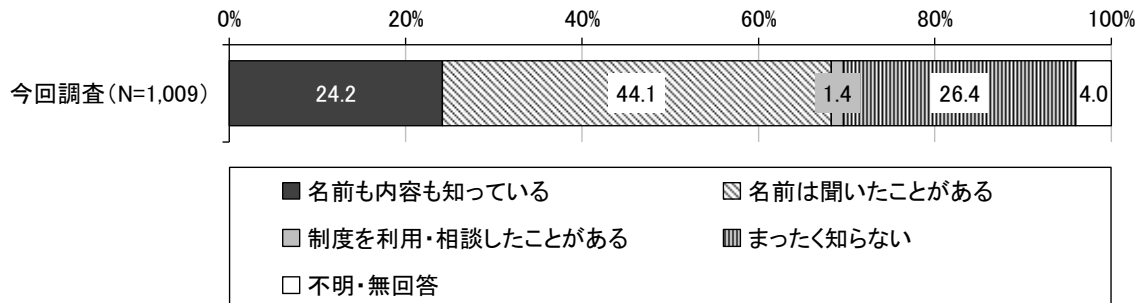




## 8 成年後見制度について

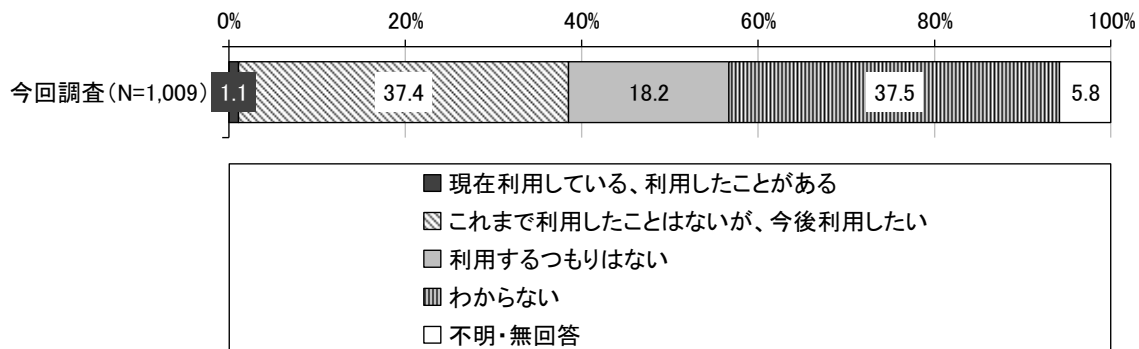
### 問 33 あなたは「成年後見制度」についてどのくらい知っていますか。（単数回答）

「成年後見制度」の認知度についてみると、「名前は聞いたことがある」が 44.1%と最も高く、次いで「まったく知らない」が 26.4%、「名前も内容も知っている」が 24.2%となっています。



### 問 34 今後あなたやあなたの家族が認知症などにより判断する力が衰えたとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。（単数回答）

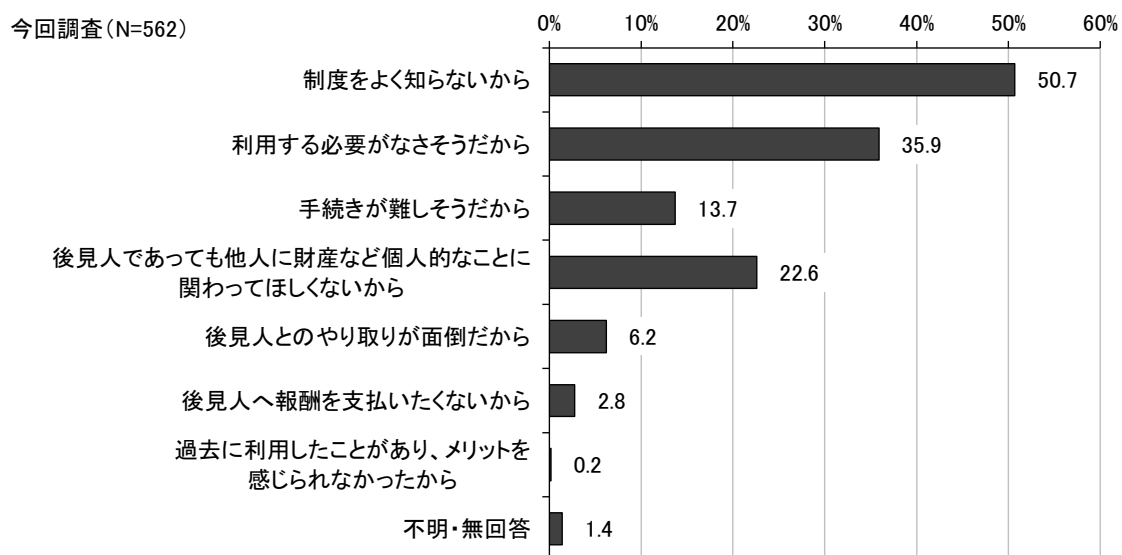
本人やその家族が認知症などにより判断する力が衰えたとき、成年後見制度を利用したいかについてみると、「わからない」が 37.5%と最も高く、次いで「これまで利用したことはないが、今後利用したい」が 37.4%、「利用するつもりはない」が 18.2%となっています。



問 34 で「利用するつもりはない」、「わからない」を選んだ方

問 34-1 上記の回答を選んだ理由はなんですか。（複数回答）

成年後見制度を利用したくない理由についてみると、「制度をよく知らないから」が 50.7%と最も高く、次いで「利用する必要がなさそうだから」が 35.9%、「後見人であっても他人に財産など個人的なことに関わってほしくないから」が 22.6%となっています。





太宰府市の地域福祉に関する  
アンケート調査  
結果報告書

発行:太宰府市 健康福祉部 福祉課 福祉政策係  
電話(代表):092-921-2121(内線 363・376)  
FAX:092-925-0294

発行年月:令和3年4月